

橋 梁に関する
調査表記入マニュアル

〔D010〕 橋 梁 基 本

この調査表は、橋梁に関する基本的データを登録するためのものである。

1. 一般的注意事項

- (1) データは次の単位で作成する。
 - 橋梁種別毎に供用開始された1橋単位で作成する。
 - 橋梁が1箇所において上下線等、分離されて架橋されている場合は分離されている橋梁毎に1橋として取扱う。
 - 高架橋で2市区町村以上に跨って存在する場合は、桁単位で市区町村別に区分し、1市区町村毎に1データとして作成する。
- (2) ここで取扱う橋梁とは河川、湖沼、海峡、運河などの水面を越えるため、あるいは水のない谷、凹地または、建築物や他の交通路等を越えるために桁下に空間を残し、架設される道路構造物で橋長2.0m以上のものをいう。(出典：道路施設現況調査提要)
- (3) 橋梁に関する幅員構成については「D011橋梁幅員構成」にて作成する。
- (4) 橋梁に関する高欄・防護柵については「D012橋梁高欄防護柵」にて作成する。
- (5) 橋梁に関する架設位置の交差条件については「D013橋梁交差状況」にて作成する。
- (6) 橋梁に関する添架物については「D014橋梁添架物」にて作成する。
- (7) 橋梁に関する上部工構造体については「D015橋梁上部工」にて作成する。
- (8) 橋梁に関する下部工については「D016橋梁下部工」にて作成する。ただし、上部工が分離で下部工が一体の場合は、下部工のデータは上り線に対してのみ作成する。
- (9) 橋梁に関する支間及び支承構造については「D017橋梁径間」にて作成する。
- (10) 橋梁に関する写真・図面類については「D018橋梁図面」にて作成する。
- (11) 橋梁に関する再塗装（塗装履歴）については「D019橋梁塗装歴」にて作成する。
- (12) 橋梁に関する補修・補強及び改良については「D01A橋梁補修歴」にて作成する。
- (13) 橋梁に関する点検・調査については「D01B橋梁点検歴」にて作成する。
- (14) 橋梁に関する部材毎に行った点検・調査については「D01C橋梁点検詳細歴」にて作成する。
- (15) 橋梁に関する部材毎に行った補修・補強については「D01D橋梁点検補修」にて作成する。

2. 記入事項

- (1) 工事番号
- (2) 工事区分C
- (3) 施設対応番号
- (C) 地整C
- (D) 事務所C
- (E) 出張所C
- (F) 路線
- (G) 現旧区分C
- (H) 整理番号1
- (I) 整理番号2
- (J) 整理番号3
- (N) 補助番号

上記(1)、(2)、(3)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(H)、(I)、(J)、(N)の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編)」、§1. 共通注意事項」を参照のこと。

(P) 橋梁コード：◆

橋梁コードについては以下の通り記入する。

- ・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。
- ・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

(Q) 分割区分C：◆

該当する橋梁の分割区分について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
上下線一体	0
上り線	1
下り線	2

(U) 施設完成年度

施設が完成した年度を記入する。(年は和暦を記入)

年号コードについては、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編)」、§1. 共通注意事項」を参照のこと。

(記入例) 昭和61年 ———> $\frac{3}{\uparrow}$ 61
 年号コード(3:昭和)

(V) 施設改修年度：◆

施設を改修した年度を記入する。(年は和暦を記入)

年号コードについては、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編)」、§1. 共通注意事項」を参照のこと。施設の改修がなされていない場合は「*」を記入する。

(記入例) 平成5年 ———> $\frac{4}{\uparrow}$ 05
 年号コード(4:平成)

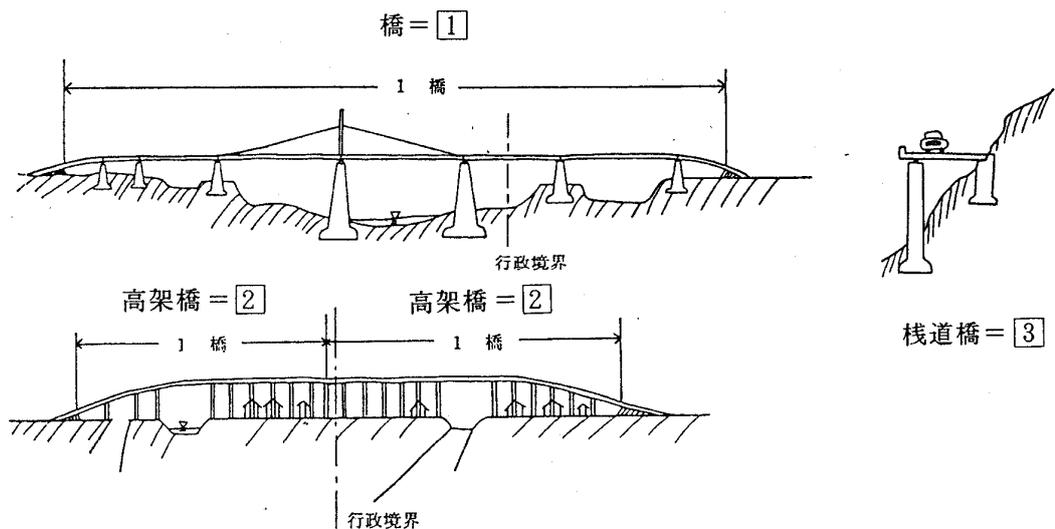
(W) 名称：◆

橋梁名称について、20文字以内の日本語(漢字、ひらがな、カタカナ、英数字)で記入する。

(X) 橋梁種別C：◆

橋梁種別について、該当するコードを記入する。(出典：道路施設現況調査提要)

区 分	コード	
橋	1	注)
高架橋	2	
栈道橋	3	



注) 1. 橋
 河川、湖沼、海峡、運河、谷等の水面(出水時に水面となる場合を含む。)を越えることを主たる目的とした橋梁をいう。
 2. 高架橋
 1. の橋及び栈道橋以外の橋梁をいい、跨道橋、跨線橋を含む。

3. 栈道橋

斜面の中腹に棚状の橋梁構造形式で設けられた道路で橋梁部分が横断面的に車道まで及んでいるものをいう。

(Z) 橋梁区分C：◆

橋梁区分について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
本 線 橋	1
側 道 橋	2
ランプ橋	3

(AB) 架設竣工年：◆

架設竣工年について記入する。（年は西暦を記入）

(記入例) 昭和48年 ——> 1973

(AC) 等級C：◆

橋梁の等級について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
1 等 橋	1
2 等 橋	2
3 等 橋	3
な し	9

- ・ 適用示方書類によらないで設計または施工されたもの（例、木橋、つり橋等橋格のないもの等）については、‘*’を記入する。

(AE) 適用示方書C：◆

設計または施工に用いた代表的な適用示方書について、該当するコードを記入する。

適 用 示 方 書 類	発行年	コード
道路構造に関する細則案	大正15年	1 1 0
鋼道路橋設計示方書案、鋼道路橋製作示方書案	昭和14年	1 1 1
鋼道路橋設計示方書	〃 31年	1 1 2
〃 (改訂)	〃 39年	1 1 3
道路橋示方書 I 共通編 II 鋼橋編	昭和47年	1 4 1
〃 〃 I 共通編 III コンクリート橋編	〃 53年	1 4 3
〃 〃 I 共通編 II 鋼橋編 (改訂)	〃 55年	1 4 5
〃 〃 I 共通編 IV 下部構造編	〃 55年	1 4 5
〃 〃 V 耐震設計編	〃 55年	1 4 5

適用示方書類	発行年	コード
道路橋示方書 I 共通編 II 鋼橋編	平成 2年	1 9 0
(平成元年度) I 共通編 III コンクリート橋編	〃 2年	1 9 0
〃 I 共通編 IV 下部構造編	〃 2年	1 9 0
〃 V 耐震設計編	〃 2年	1 9 0
道路橋示方書 I 共通編 II 鋼橋編	平成 6年	1 6 1
(平成6年度) I 共通編 III コンクリート橋編	〃 6年	1 6 1
〃 I 共通編 IV 下部構造編	〃 6年	1 6 1
道路橋示方書 I 共通編 II 鋼橋編	平成 8年	1 6 5
(平成8年度) I 共通編 III コンクリート橋編	〃 8年	1 6 5
〃 I 共通編 IV 下部構造編	〃 8年	1 6 5
〃 V 耐震設計編	〃 8年	1 6 5
道路橋示方書 I 共通編 II 鋼橋編	平成14年	1 6 6
(平成14年度) I 共通編 III コンクリート橋編	〃 14年	1 6 6
〃 I 共通編 IV 下部構造編	〃 14年	1 6 6
〃 V 耐震設計編	〃 14年	1 6 6
鋼道路橋の一方鉄筋コンクリート床版の配力鉄筋の設計について (局長通達)	昭和42年	1 8 1
特定の路線にかかる橋、高架の道路等の技術水準について (局長通達)	昭和48年	1 8 5
適用示方書類によらないで設計又は施工されたもの (例：木橋、つり橋等橋格のないもの等) について		9 9 9

*旧橋を撤去せず部分的に架替等を行った場合の記入は、当初架設時のものを記入する。

(AG) 総径間数：◆

対象となる橋梁を構成している径間数を記入する。

(記入例) 総径間数 N=1 2 ———> 1 2

(AH) 歩道添架C

架設後においてブラケット等で歩道添架がなされているか否かについて、該当するコードを記入する。なお、歩道添架がなされた場合は、本線橋と一体構造とみなし橋側歩道橋のデータ作成は行わない。

区 分	コード
無 し	0
有 り	1

(AL) 事業区分C：◆

事業区分について、該当するコードを記入する。

(出典：耐震点検調査)

区 分	コード	
一般道路	1	注)
街 路	2	
有料道路	3	

注) 街路とは、都市計画街路の道路をいう。

(AO) 百米標自 (km)

該当する区間の距離標 (百米標) を記入する。(パラペット前面の位置とする。ただし、高架橋については、市区町村界を考慮すること。) 記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル (共通編) , §1. 共通注意事項」を参照のこと。

(AP) 距離自 (m)

該当する区間の距離標 (百米標) からの距離を記入する。(パラペット前面の位置とする。ただし、高架橋については、市区町村界を考慮すること。) 記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル (共通編) , §1. 共通注意事項」を参照のこと。

(AQ) 百米標至 (km)

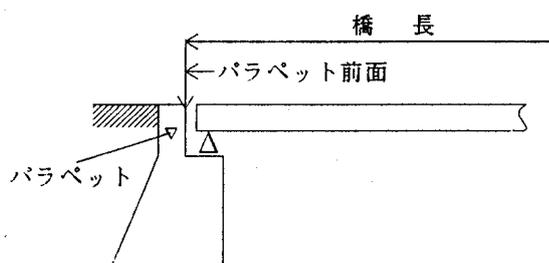
該当する区間の距離標 (百米標) を記入する。(パラペット前面の位置とする。ただし、高架橋については、市区町村界を考慮すること。) 記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル (共通編) , §1. 共通注意事項」を参照のこと。

(AR) 距離至 (m)

該当する区間の距離標 (百米標) からの距離を記入する。(パラペット前面の位置とする。ただし、高架橋については、市区町村界を考慮すること。) 記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル (共通編) , §1. 共通注意事項」を参照のこと。

(AS) 橋長 (m) : ◆

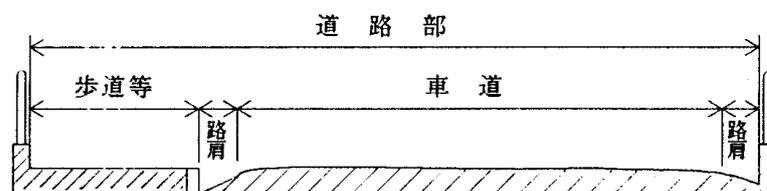
橋台間のパラペット前面の距離を、小数点以下2位まで記入する。ただし、高架橋については、市区町村界を考慮すること。



(記入例) 橋長 105.155 (m) ———> 105.16

(AT) 橋面積 (m²) : ◆

橋面積 (地覆の内側間 (道路部) × 橋長) を、小数点以下1位まで記入する。



(記入例) 橋面積 $A = 5645.16 \text{ m}^2$ ——> 5645.2

(AU) 平面形状C : ◆

1 橋全体としての平面形状について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
直橋 (直角橋)	1
斜 橋	2
曲 線 橋	3
直橋 + 斜橋	4
直橋 + 曲線橋	5
斜橋 + 曲線橋	6
そ の 他	9

(AY) 落下物防止柵高さ (m) : ◆

落下物防止柵の高さの最大値を、小数点以下2位まで記入する。(落下物防止柵がない場合は ‘*’ を記入)

(記入例) 落下物防止柵の高さ (最大) $H = 2.50 \text{ m}$ ——> 2.50

(AZ) 落下物防止柵延長 (m) : ◆

落下物防止柵の延長を、小数点以下2位まで記入する。(落下物防止柵がない場合は ‘*’ を記入)

(記入例) 落下物防止柵の総延長 $L = 330.70 \text{ m}$ ——> 330.70

(BA) 遮音壁有無C : ◆

遮音壁の有無について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
無 し	0
有 り	1

(BC) 遮光壁有無C : ◆

遮光壁の有無について、該当するコードを記入する。

(BA) 遮音壁有無Cのコード表と同様。

(BE) 踏掛版有無C：◆

踏掛版の設置の有無について、該当するコードを記入する。

(BA) 遮音壁有無Cのコード表と同様。

(BG) 点検施設C：◆

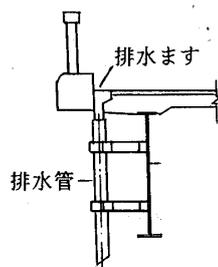
橋梁の点検施設について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
点検施設 無し	0
点検施設 有り	
検査路のみ	1
検査路以外の点検施設	2
検査路とその他の点検施設	3

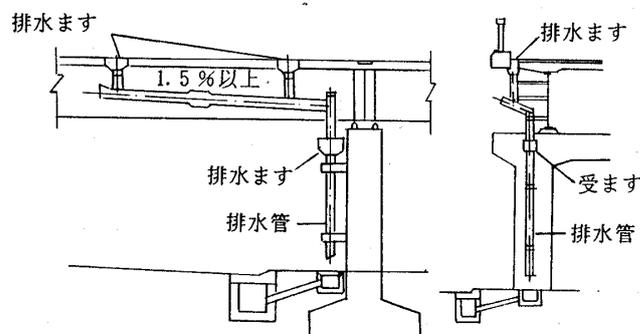
(BI) 排水施設C：◆

排水施設の型式について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。

区 分	コード
排水施設無し	0
たれ流し型式	1
導水型式	2
そ の 他	9



(たれ流し式)



側面図

正面図

(導水型式)

(BM) 床版防水範囲C

床版防水工の範囲について、該当するコードを記入する。（施工していない場合は‘*’を記入）

区 分	コード
橋 面 全 面	1
車道のみ全面	2
その他部分的	9

(BS) 設計活荷重C：◆

設計活荷重について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
12 t (大正15年)	1 1
8 t (")	1 2
6 t (")	1 3
13 t (昭和14年)	2 1
9 t (")	2 2
TL-20 (昭和31年)	3 1
TL-14 (")	3 2
T-20, L-14(")	3 3
TT-43 (昭和48年)	4 1
B活荷重 (活荷重載荷長D=10m)	6 1
A活荷重 (活荷重載荷長D= 6m)	6 2
そ の 他	9 9

注)

注) B活荷重とA活荷重は大型の自動車の交通状況に応じて区分する。

(CK) 通行制限C：◆

通行制限について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
自動車通行不能	1
通行制限 有り	2
通行制限 無し	3

(CM) 荷重制限 (tf)

荷重制限が設定されている場合にその数値を、小数点以下1位まで記入する。（通行制限がない場合は‘*’を記入）

(CN) 制限高さ (m)

高さ制限がある場合にその数値を、小数点以下1位まで記入する。(通行制限がない場合は‘*’を記入)

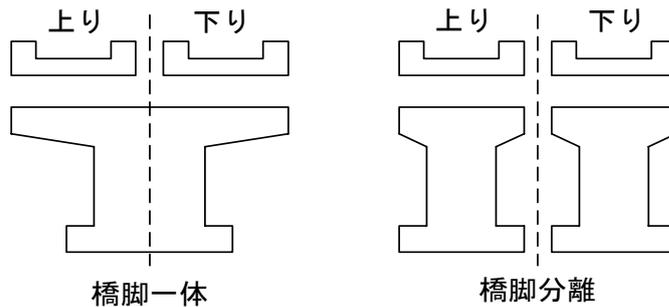
(CO) 制限幅 (m)

幅制限がある場合にその数値を、小数点以下1位まで記入する。(通行制限がない場合は‘*’を記入)

(CT) 上部工分離橋脚一体別C : ◆

上部工分離の場合の橋脚一体の別について、該当するコードを記入する。(上部工が分離していない場合は‘*’を記入)

区 分	コード
橋脚一体	1
橋脚分離	2



(CV) 起点側市区町村C : ◆

該当する橋梁区間の起点側の市区町村名のコードを記入する。使用するコードは「全国市町村要覧」を参照し、「都道府県市区町村コード」を記入する。

(記入例) 茨城県鹿島郡旭村の場合 ——> コード: 08401
(検査数字は含まない)

(CX) 起点側検査数字 : ◆

上記の市区町村に対し、「全国市町村要覧」を参照し、コード末尾の□内の数字を記入する。

(CY) 起点側所在地 : ◆

該当する橋梁区間の起点側の所在地(字番地まで)について、30文字以内の日本語で記入する。

(CZ) 終点側市区町村C : ◆

該当する橋梁区間の終点側の市区町村名のコードを記入する。使用するコードは「全国市町村

要覧」を参照し、「都道府県市区町村コード」を記入する。なお、起点側と同一の所在地の場合には「*」を記入する。

(記入例) 茨城県鹿島郡旭村の場合 ———> コード：08401
(検査数字は含まない)

(DB) 終点側検査数字：◆

上記の市区町村に対し、「全国市町村要覧」を参照し、コード末尾の□内の数字を記入する。

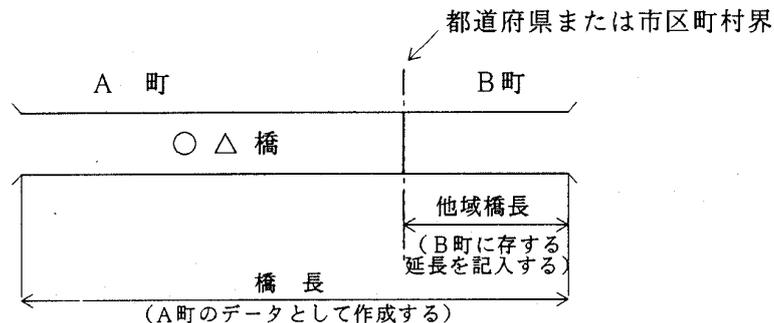
(DC) 終点側所在地：◆

該当する橋梁区間の終点側の所在地（字番地まで）について、30文字以内の日本語で記入する。なお、起点側と同一の所在地の場合は「*」を記入する。

(DD) 他域橋長 (m)：◆

該当する橋梁が市区町村界（都道府県界と重複している場合も同様に取扱う）に架設されている場合のみ他域延長を、小数点以下2位まで記入する。他域橋長がない場合は「*」を記入する。

○ 橋長と他域橋長との関係



(DE) 起終点区分C：◆

(DD) 他域橋長において他域とされた地域が (CV) 起点側市区町村C、(CZ) 終点側市区町村Cにおける所在地のどちらに位置しているか、他域橋長の存する地域について、該当するコードを記入する。他域橋長がない場合は「*」を記入する。

区 分	コード
起 点 側	1
終 点 側	2

(DG) 橋梁接続起点側市区町村C：◆

2以上の市区町村にわたって設けられている高架橋の場合において、該当する高架橋以外の高架部分について起点側の市区町村名のコードを記入する。なお、「全国市町村要覧」を参照し、

都道府県市区町村コード」を記入する。（橋梁接続がない場合は「*」を記入）

(DI) 橋梁接続起点側検査数字：◆

上記の市区町村に対し、「全国市町村要覧」を参照し、コード末尾の□内の数字を記入する。
 （橋梁接続がない場合は「*」を記入）

(DJ) 橋梁接続起点側橋梁種別C：◆

橋梁接続の起点側の橋梁種別について、記入事項（X）橋梁種別Cを参照し、該当するコードを記入する。（橋梁接続がない場合は「*」を記入）

(DN) 橋梁接続起点側橋梁コード：◆

橋梁接続の起点側の橋梁について、記入事項（H）整理番号1を参照し、該当する橋梁コードを記入する。（橋梁接続がない場合は「*」を記入）

(DO) 橋梁接続起点側分割番号：◆

橋梁接続の起点側の橋梁分割について、記入事項（H）整理番号1を参照し、該当する分割番号を記入する。（橋梁接続がない場合は「*」を記入）

(DP) 橋梁接続終点側市区町村C：◆

（DG）橋梁接続起点側市区町村Cと同様に、終点側を記入する。

(DR) 橋梁接続終点側検査数字：◆

（DI）橋梁接続起点側検査数字と同様に、終点側を記入する。

(DS) 橋梁接続終点側橋梁種別C：◆

（DJ）橋梁接続終点側橋梁種別Cと同様に、終点側を記入する。

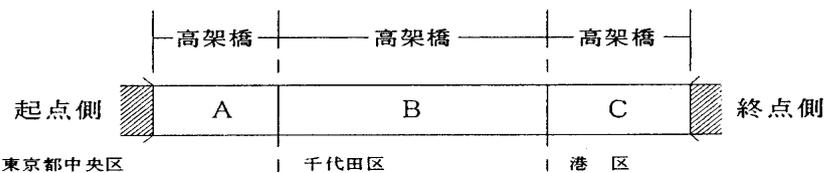
(DW) 橋梁接続終点側橋梁コード：◆

（DN）橋梁接続起点側橋梁コードと同様に、終点側を記入する。

(DX) 橋梁接続終点側分割番号：◆

（DO）橋梁接続起点側分割番号と同様に、終点側を記入する。

[路線名：0001]



	A：中央区	B：千代田区	C：港区
市区町村C	13102	13101	13103
検査数字	4	6	2
橋梁種別C	4	4	4
橋梁コード	0001	0002	0003

(記入例－１) 該当する高架橋がBの場合、起点側A、終点側Cについて、各項目のデータを記入する。

(記入例－２) 該当する高架橋がAの場合、高架B（終点側として）について、各項目のデータを記入する。

(DY) 塩害地域区分C

塩害地域区分について、該当するコードを記入する。

(出典：塩害対策指針の対策区分)

地域区分	地 域	海岸線からの距離	対策区分	影響度合い	コード
A	沖縄県	海上部及び海岸線から100mまで	S	影響が激しい	AS
		100mをこえて300mまで	I		A1
		上記以外の範囲	II	影響を受ける	A2
B	下表に示す地域	海上部及び海岸線から100mまで	S	影響が激しい	BS
		100mをこえて300mまで	I		影響を受ける
		300mをこえて500mまで	II	B2	
		500mをこえて700mまで	III	B3	
C	上記以外の地域	海上部及び海岸線から20mまで	S	影響が激しい	CS
		20mをこえて50mまで	I		影響を受ける
		50mをこえて100mまで	II	C2	
		100mをこえて200mまで	III	C3	
D		上記以外	なし		D1

地域区分Bの対象地域表

北海道のうち、宗谷支庁の札文町・利尻富士町・利尻町・稚内市・猿払市・豊富町、留萌支庁、石狩支庁、後志支庁、檜山支庁、渡島支庁の松前町
 青森県のうち、蟹田町、今別町、平舘村、三厩村（東津軽郡）、北津軽郡、西津軽郡、大間町、佐井村、脇野沢村（下北郡）
 秋田県、山形県、新潟県、富山県、石川県、福井県

(EA) 塩害地域距離 (km)

塩害地域区分に対する海岸線からの距離を、小数点以下1位まで記入する。ただし、海岸線からの距離が100km以上のときは、記入の必要がないため「*」を記入。

(記入例) 海岸線からの距離 D=25.46km → 25.5

(ED) 照明有無C

照明の有無について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
無 し	0
有 り	1

(EW) 消雪パイプ有無C

消雪パイプの有無について、該当するコードを記入する。

(ED) 照明有無Cのコード表と同様。

(EY) ロードヒート有無C

ロードヒーティングの有無について、該当するコードを記入する。

(ED) 照明有無Cのコード表と同様。

[D011] 橋梁幅員構成

この調査表は、橋梁の幅員構成に関するデータを登録するためのものである。

1. 一般的注意事項

(1) データは次の単位で作成する。

- 「D010橋梁基本」の作成単位毎とする。
- 供用開始毎に作成する。

(2) 有効幅員とは、地覆前面から地覆前面までの幅員をいう。

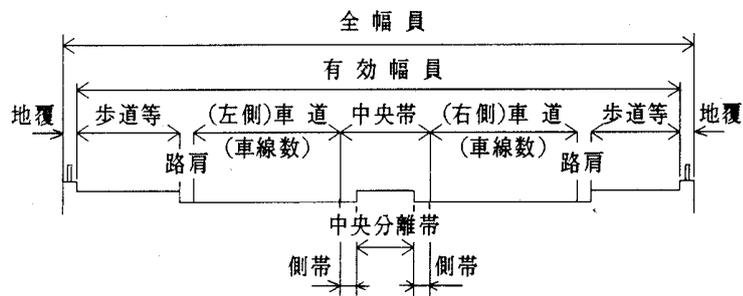
(3) 歩道等幅員とは、車道部と併設してある歩道、歩道+自転車道および自転車歩行者道の幅員をいう。

(4) 幅員が異なる場合は、その代表値（標準幅員または最大延長に対する幅員）を記入する。

(5) 車道幅員が明確でない場合は、地覆内側間寸法（歩道がある場合は、歩道端内側間寸法）50cm（片側25cm×2）を差し引いたものを車道幅員とする。

(6) 上下線（左側・右側）の分離が不明の場合には、車道幅員の真中とする。

<幅員構成>



2. 記入事項

- (1) 工事番号
- (2) 工事区分C
- (3) 施設対応番号
- (C) 地整C
- (D) 事務所C
- (E) 出張所C
- (F) 路線

(G) 現旧区分C

(G-1) 現旧区分

(H) 整理番号1

(I) 整理番号2

(J) 整理番号3

(N) 補助番号

上記(1)、(2)、(3)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(G-1)、(H)、(I)、(J)、(N)の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編)」、§1. 共通注意事項」を参照のこと。

(P) 橋梁コード

橋梁コードについては以下の通り記入する。

- ・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。
- ・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

(Q) 分割区分C

該当する橋梁の親表(「D010橋梁基本」)で記入した分割区分コードを記入する。

(Q-1) 分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

- ・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。
- ・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

(T) 全幅員 (m) : ◆

全幅員について、小数点以下2位まで記入する。

(U) 有効幅員 (m) : ◆

有効幅員について、小数点以下2位まで記入する。

(V) 左側車線地覆幅 (m) : ◆

起点から見て左側車線の地覆幅について、小数点以下2位まで記入する。

(W) 左側車線地覆高 (m)

起点から見て左側車線の地覆高について、小数点以下2位まで記入する。

(X) 左側車線歩道幅 (m) : ◆

起点から見て左側車線の歩道幅について、小数点以下2位まで記入する。

(Y) 左側車線路肩幅 (m) : ◆

起点から見て左側車線の路肩幅について、小数点以下2位まで記入する。

(Z) 左側車線車道幅 (m) : ◆ 注1)

起点から見て左側車線の車道幅について、小数点以下2位まで記入する。

(AA) 左側車線車線数 注1)

起点から見て左側の車線数について記入する。

(AB) 中央帯 (m) : ◆ 注2)

中央帯の幅員について、小数点以下2位まで記入する。

(AC) 中央分離帯 (m) : ◆ 注2)

中央分離帯の幅員について、小数点以下2位まで記入する。

(AD) 右側車線車線数 注1)

起点から見て右側の車線数について記入する。

(AE) 右側車線車道幅 (m) : ◆ 注1)

起点から見て右側車線の車道幅について、小数点以下2位まで記入する。

(AF) 右側車線路肩幅 (m) : ◆

起点から見て右側車線の路肩幅について、小数点以下2位まで記入する。

(AG) 右側車線歩道幅 (m) : ◆

起点から見て右側車線の歩道幅について、小数点以下2位まで記入する。

(AH) 右側車線地覆幅 (m) : ◆

起点から見て右側車線の地覆幅について、小数点以下2位まで記入する

(AI) 右側車線地覆高 (m)

起点から見て右側車線の地覆高について、小数点以下2位まで記入する。

注1) 上下線分離で1車線の場合

- ・(Q)分割区分=2(下り線) : (Z)左側車線車道幅、(AA)左側車線車線数にそれぞれの値を記入し、(AE)右側車線車道幅、(AD)右側車線車線数は‘0’を記入する。
- ・(Q)分割区分=1(上り線) : (Z)左側車線車道幅、(AA)左側車線車線数は‘0’を記入し、(AE)右側車線車道幅、(AD)右側車線車線数にはそれぞれの値を記入する。

注2) 上下線分離の場合

- ・(AB)中央帯、(AC)中央分離帯は‘0’を記入する。

[D012] 橋梁高欄防護柵

この調査表は、橋梁の高欄と防護柵に関するデータを登録するためのものである。

1. 一般的注意事項

(1) データは次の単位で作成する。

- 「D010橋梁基本」の作成単位毎とする。
- 高欄・防護柵が設置されている位置毎とする。 注)

注) ここで対象とする高欄と防護柵の定義は、「防護柵設置要領・資料集, 昭和61年7月, (社) 日本道路協会」によるものとする。

- ・高欄とは、歩行者及び自転車の橋梁外への転落を防止することを目的として設置される防護柵であり、P種の転落防止柵の一種であると考えられることができる。
- ・橋梁用車両防護柵とは、橋梁に設置する車両防護柵の総称であり、走行中に進行方向を誤った車両が橋梁外、対向車線または歩道等に逸脱するのを防ぐとともに、乗員の傷害及び車両の破損を最少限にとどめて、車両を正常な進行方向に復元させることを目的としている。

(2) 防護柵の諸元については、[E010] 防護柵の調査表記入マニュアル側でデータを作成する。

2. 記入事項

- (1) 工事番号
- (2) 工事区分C
- (3) 施設対応番号
- (C) 地整C
- (D) 事務所C
- (E) 出張所C
- (F) 路線
- (G) 現旧区分C
- (G-1) 現旧区分
- (H) 整理番号1
- (I) 整理番号2

(J) 整理番号3

(N) 補助番号

上記(1)、(2)、(3)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(G-1)、(H)、(I)、(J)、(N)の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編)」、§1. 共通注意事項」を参照のこと。

(Q) 分割区分C

該当する橋梁の親表(「D010橋梁基本」)で記入した分割区分コードを記入する。

(Q-1) 分割区分

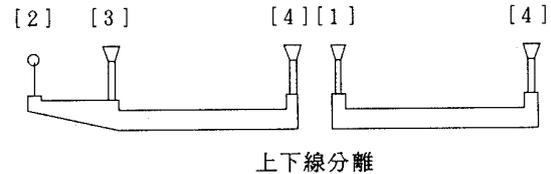
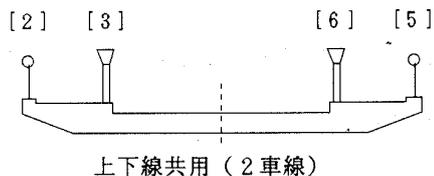
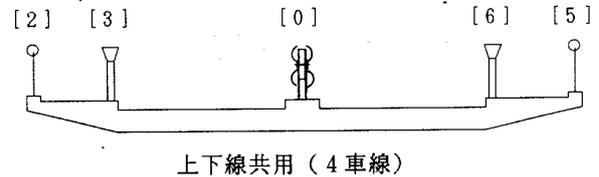
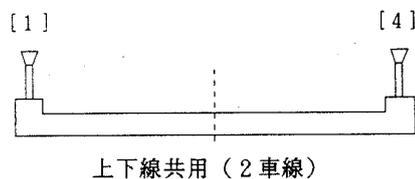
分割区分については以下の通り記入する。

- ・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。
- ・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

(S) 高欄防護柵設置場所C：◆

高欄、防護柵の設置場所について、該当するコードを記入する。なお、左側、右側については、下図を参照。(起点から見て左側・右側とする)

区 分	コード
左 車道端	1
歩道端	2
歩車道境界	3
右 車道端	4
歩道端	5
歩車道境界	6
中央分離帯	0



(U) 高欄防護柵別C

高欄、防護柵の別について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
高 欄	1
防 護 柵	2

(W) 高欄防護柵材質材料C : ◆

高欄の材質（材料）について、該当するコードを記入する。（防護柵の場合は‘*’を記入する。

〔E 0 1 0〕 防護柵側でデータを作成する。）

区 分	コード
ア ル ミ	1
アルミ 鋳造	2
鋼 製	3
鋼 鋳 造	4
コンクリート	5
そ の 他	9

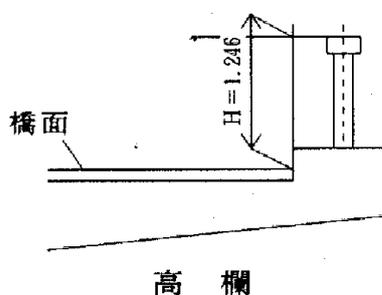
(AA) 防護柵設計種別C：◆

車両用防護柵の設計種別について、該当するコードを記入する。（車両用防護柵以外は‘*’を記入）

区 分		衝突速度 (km/h)	コード
種 別	車両質量 (ト)		
路 側 用	SS	100以上	10
	SA	80以上	11
	SB	65以上	12
	SC	50以上	13
	A	45以上	14
	B	30以上	15
	C	26以上	16
	不明		19
分 離 帯 用	SSm	100以上	20
	SAm	80以上	21
	SBm	65以上	22
	SCm	50以上	23
	Am	45以上	24
	Bm	30以上	25
	Cm	26以上	26
歩 車 道 境 界 用	SBp	65以上	30
	SCp	50以上	31
	Ap	45以上	32
	Bp	30以上	33
	Cp	26以上	34

(AC) 高欄防護柵高さ (m)

高欄の橋面からの高さを、小数点以下2位まで記入する。（防護柵の場合は‘*’を記入する。
〔E010〕 防護柵側でデータの作成を行う。）



〔D013〕 橋梁交差状況

この調査表は、橋梁の架設位置の交差条件に関するデータを登録するためのものである。

1. 一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

- 「D010橋梁基本」の作成単位毎とする。
- 交差条件について協議した機関毎とする。
- 交差箇所毎とする。

2. 記入事項

- (1) 工事番号
- (2) 工事区分C
- (3) 施設対応番号
- (C) 地整C
- (D) 事務所C
- (E) 出張所C
- (F) 路線
- (G) 現旧区分C
- (G-1) 現旧区分
- (H) 整理番号1
- (I) 整理番号2
- (J) 整理番号3
- (N) 補助番号

上記(1)、(2)、(3)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(G-1)、(H)、(I)、(J)、(N)の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編)」、§1. 共通注意事項」を参照のこと。

- (Q) 分割区分C

該当する橋梁の親表(「D010橋梁基本」)で記入した分割区分コードを記入する。

(Q-1) 分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

- ・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。
- ・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

(S) 架橋状況C (交差条件) : ◆

該当する橋梁の架橋状況について、該当するコードを記入する。

区 分	コード	区 分	コード
道路の上にある	1	水域 (河川・開水路 ・湖沼)	5
道路の下にある	2	海 域	6
鉄道の上にある	3	田 畑	8
鉄道の下にある	4	その他(砂防協議等)	7

(U) 協議有無C

協議の有無について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
協 議 無 し	0
協 議 有 り	1

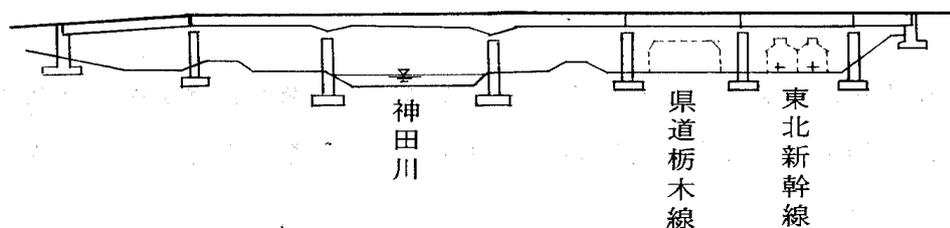
(W) 交差物名称 : ◆

交差物件名称を、10文字以内の日本語で記入する。(記入事項(X)協議機関の記入例参照)

(X) 協議機関

交差物に関して協議した機関名を、10文字以内の日本語で記入する。

(記入例)



交 差 物 名 称

管 理 者 ・ 協 議 機 関

神 田 川	池 田 土 木 事 務 所
県 道 栃 木 線	栃 木 県 道 路 課

東北新幹線

東日本旅客鉄道(株)

[D014] 橋梁添架物

この調査表は、橋梁の添架物に関するデータを登録するためのものである。

1. 一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

- 「D010橋梁基本」の作成単位毎とする。
- 添架物毎に作成する。
- 形状、寸法単位毎に作成する。

2. 記入事項

(1) 工事番号

(2) 工事区分C

(3) 施設対応番号

(C) 地整C

(D) 事務所C

(E) 出張所C

(F) 路線

(G) 現旧区分C

(G-1) 現旧区分

(H) 整理番号1

(I) 整理番号2

(J) 整理番号3

(N) 補助番号

上記(1)、(2)、(3)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(G-1)、
(H)、(I)、(J)、(N)の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マ
ニュアル(共通編) §1. 共通注意事項」を参照のこと。

(Q) 分割区分C

該当する橋梁の親表(「D010橋梁基本」)で記入した分割区分コードを記入する。

(Q-1) 分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

- ・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。
- ・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

(S) 添架物区分C : ◆

添架物区分について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
自管理添架物	1
占用添架物	2

(U) 添架物種別C : ◆

添架物種別について、該当するコードを記入する。

区 分	コード	区 分	コード
上水道	1 1	ガス	4 1
工業用水道	1 2	道路情報板	5 1
農業用水	1 3	道路標識	5 2
下水道	1 4	通信ケーブル	5 3
電力	2 1	I・T・V	5 4
電話	3 1	その他	9 9

(W) 添架物寸法 : ◆

- 電力及び電話については、設置する条数と段数を記入する。
- 道路情報板・道路標識及びI T Vの場合は、該当なしとして‘*’を記入する。
- これら以外については径(φ)を(mm)単位で記入する。

(記入例-1) 「上水道 φ200」の場合 ——> 2 0 0

(記入例-2) 「電力 3条5段」の場合 ——> 0 3 0 5

(X) 添架物重量(kgf/m) : ◆

- 添架物の単位長さ当たりの重量を記入する。
- 道路情報板・道路標識及びI T Vの場合は、該当なしとして‘*’を記入する。

(Y) 添架物管理者名 : ◆

添架物の管理者名を、10文字以内の日本語で記入する。

(Z) 占用物件本数(自管理添架物も含む) : ◆

添架物種別毎の物件数を記入する。なお、電力等の場合は、物件（形状○条○段等）の総本数を記入する。

[D015] 橋梁上部工

この調査表は、橋梁の上部工構造体に関するデータを登録するためのものである。

1. 一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

- 「D010橋梁基本」の作成単位毎とする。
- 上部工構造体毎とする。

2. 記入事項

- (1) 工事番号
- (2) 工事区分C
- (3) 施設対応番号
- (C) 地整C
- (D) 事務所C
- (E) 出張所C
- (F) 路線
- (G) 現旧区分C
- (G-1) 現旧区分
- (H) 整理番号1
- (I) 整理番号2
- (J) 整理番号3
- (N) 補助番号

上記(1)、(2)、(3)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(G-1)、(H)、(I)、(J)、(N)の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編)」、§1. 共通注意事項」を参照のこと。

- (Q) 分割区分C

該当する橋梁の親表(「D010橋梁基本」)で記入した分割区分コードを記入する。

- (Q-1) 分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

- ・ 既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。
- ・ 既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

(S) 構造体番号：◆

上部工の構造体は、「D010橋梁基本」の作成単位毎に構造形式が異なる単位毎で、かつ目地により縁が切れたら別のものとする。従って、単純桁は起点側から連数分作成する。

拡幅に伴う主桁増設の場合、増設部分は別の構造体とする。なお、構造体番号は一橋の中で重複してはならない。

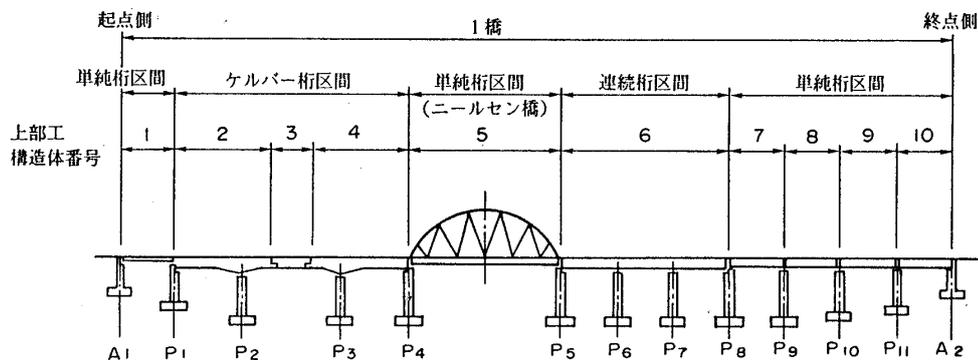
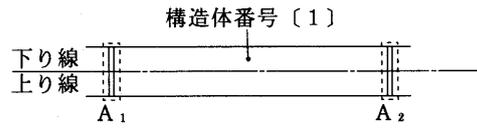
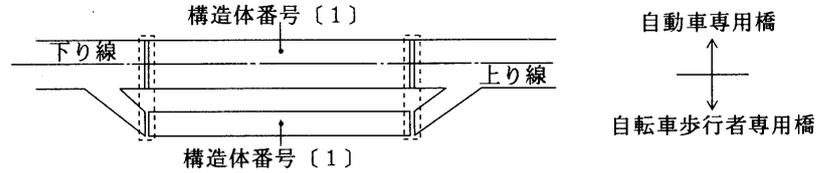


図 - 1 上部工構造体番号付与の例

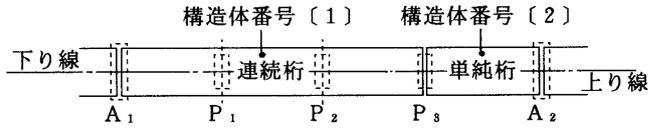
① 自動車専用橋の場合



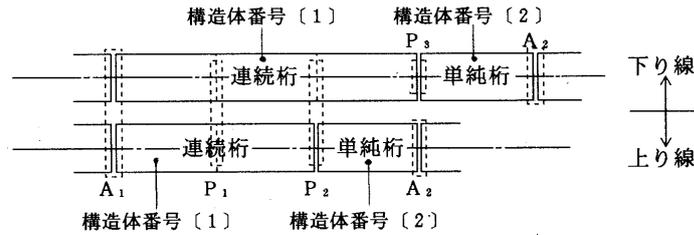
② 自動車専用橋と自転車歩行者専用橋が架設されている場合



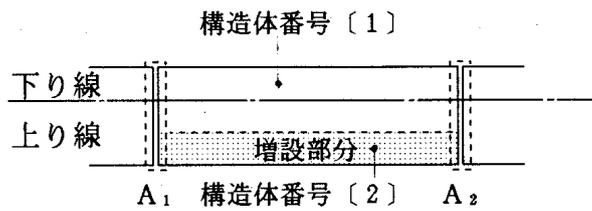
③ 連続桁と単純桁が架設されている場合



④ 上・下線に分離して架設されている場合（上・下線別に1橋毎として、データを作成する場合）

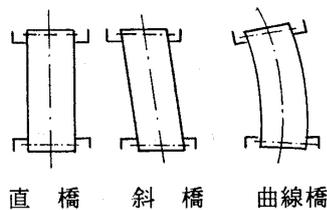


⑤ 同一径間内で拡張にともなう主桁増設の場合



(T) 平面形状C

該当する構造体の平面形状について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。



区 分	コード
直橋（直線橋）	1
斜 橋	2
曲 線 橋	3
直 橋+斜 橋	4
直 橋+曲線橋	5
斜 橋+曲線橋	6
そ の 他	9

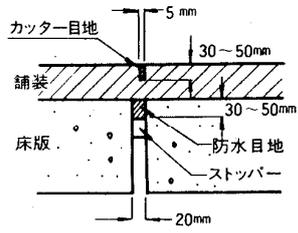
(AB) 起点側伸縮装置形式C : ◆

(AD) 終点側伸縮装置形式C : ◆

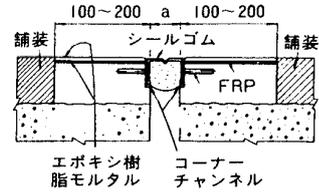
上記 (AB)、(AD) については、該当する構造体における起・終点側の伸縮装置の構造形式について、該当するコードを記入する。

区 分	コード	区 分	コード
盲目地型式（不明）	1 0	ゴムジョイント型（不明）	4 0
盲目地	1 1	ハマハイウェイジョイント	4 1
切削目地	1 2	コル及びプロフジョイント	4 2
		ネオスミジョイント	4 3
突き合わせ先付型（不明）	2 0	エースジョイント	4 4
目地板ジョイント	2 1	FKジョイント	4 5
アングル補強ジョイント	2 2	3 Sジョイント	4 6
補剛鋼材ジョイント	2 3	マウラージョイント	4 7
		トランスフレックス	4 8
突き合わせ後付型（不明）	3 0	ホーネルジョイント	7 1
カットオフジョイント	3 1	ワーボフレックス	7 2
カップリングジョイント	3 2	その他	4 9
ハマハイウェイジョイント	3 3		
SBラバージョイント	3 4	鋼製型式（不明）	5 0
SBスチールジョイント	3 5	鋼フィンガージョイント	5 1
グライディングジョイント	3 6	鋼重ね合わせジョイント	5 2
フェルспан	3 7		
ハードトップジョイント	3 8	その他 特殊型式	9 9
ラバートップジョイント	6 1	(デマーク式等)	
メタルトップジョイント	6 2		
プロフジョイント	6 3		
マウラージョイント	6 4		
ガイトップジョイント	6 5		
その他	3 9		

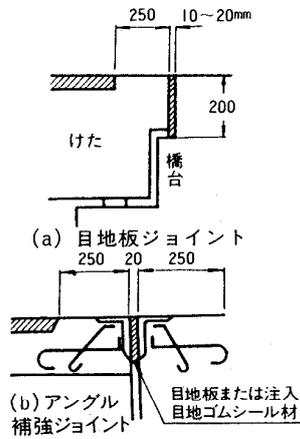
(例 図)



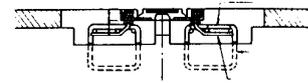
盲目地形式



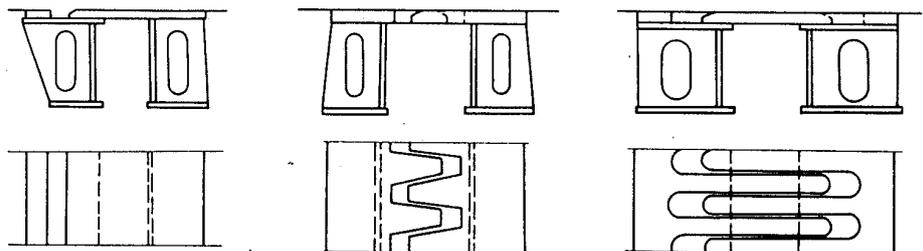
突き合わせ後付形式の例



突き合わせ先付形式



ゴムジョイント形式の例



(a) 鋼重ね合わせジョイント (b) 鋼フィンガージョイント(片持式) (c) 鋼フィンガージョイント(支持式)

鋼製形式

(AF) 材料区分C : ◆

主構造の材料について、該当するコードを記入する。

区 分	コード	区 分	コード
鋼溶接橋	1	石 橋	6
鋼 (鉄) リベット橋	2	木 橋	7
R C 橋	3	H 型 鋼	8
P C 橋	4	そ の 他	9
S R C 橋	5		

(AH) 桁形式区分C : ◆

主桁構造の桁形式について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
単 純 桁	1
連 続 桁	2
ゲルバー桁	3
連 結 桁	4
そ の 他	9

(AJ) 構造形式C : ◆

構造体の形式について、(AF) 材料区分C + (AJ) 構造形式Cの3桁のコードを記入する。なお、記入方法については、頭1桁目に(AJ) 材料区分Cで指定したコードを記入し、残り2桁については、下記に示す該当するコードを記入する。

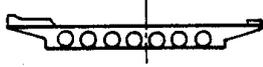
	鋼 橋	R C 橋	P C 橋	コード
床 版 橋		中実床版	プレテン床版	1 1
		中空床版	プレテン中空床版	1 2
			ポステン中空床版	1 3
		その他	その他	1 0
桁	I 桁 (非合成)	T 桁	プレテンT桁	2 1
	I 桁 (合成)		プレテンT桁 (合成)	2 2
	I 桁 (鋼床版)		ポステンT桁	2 3
	I 桁 (不明)		ポステンT桁 (合成)	2 4
橋	H形鋼 (非合成)			2 5
	H形鋼 (合成)			2 6
	H形鋼 (不明)			2 8
	箱 桁 (非合成)	箱 桁	プレテン箱桁	3 1
	箱 桁 (合成)		プレテン箱桁 (合成)	3 2
	箱 桁 (鋼床版)		ポステン箱桁	3 3
	箱 桁 (不明)		ポステン箱桁 (合成)	3 4
	その他			3 0
<u>溝橋 (BOXカルバート)</u>				3 5
トラス橋				4 0
ア ー チ 橋	タイドアーチ			5 1
	ランガー			5 2
	ローゼ			5 3
	フィレンデール			5 4
	ニールセン			5 5
	アーチ			5 6
	その他			5 0
ラーメン橋				6 0
斜 張 橋	I 桁			7 1
	箱 桁			7 2
	トラス			7 3
	その他			7 0
吊 橋	I 桁			8 1
	箱 桁			8 2
	トラス			8 3
	その他			8 0
その他				9 9

注) PC橋においてI桁は、T桁に含めて考える。
 小分類で区分できない場合は、「その他」のコードを選ぶ。
 SRC橋, 石橋, 木橋は、コード99とする。

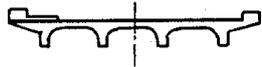
(記入例) 主構造の材料……PC橋 ———> (AF) 材料区分C コード「4」を指定
 構造体の形式……桁橋のプレテンT桁の場合—> (AJ) 構造形式C コード「421」となる



RC中実床版



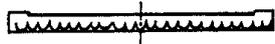
RC中空床版



RC T桁



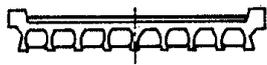
RC箱桁



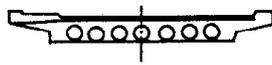
PCプレテン床版



PCプレテン中空床版



PCプレテンT桁



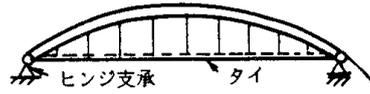
PCポステン中空床版



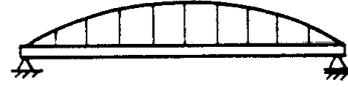
PCポステンT桁



PCポステン箱桁



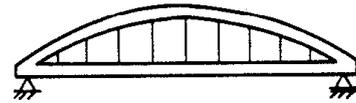
(a) タイドアーチ橋



(b) ランガー橋



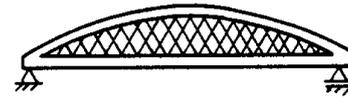
(c) ローゼ橋



(d) ローゼ橋



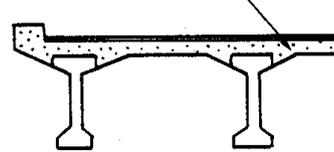
(e) フィレンデール橋



(f) ニールセン橋

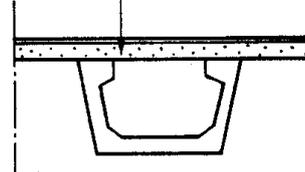
可動支承

場所打ち
コンクリート床版



合成Tげた橋

場所打ち
コンクリート床版

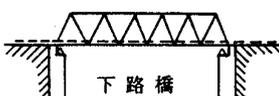
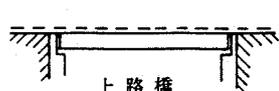


合成箱げた橋

(AL) 路面位置C : ◆

路面位置について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
上路橋 路面が主桁（主構）の上部にあるもの	1
中路橋 " " 中間部 "	2
下路橋 " " 下部 "	3
二層橋 路面が上下の二段になっているもの	4



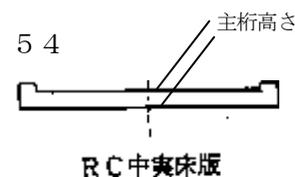
(AN) 主桁主構本数 : ◆

主桁本数を記入する。（RC床版橋など主桁本数が不明確な橋梁の場合は1を記入）

(AO) 主桁主構高さ (m) : ◆

主桁または主構高さの最大値を、小数点以下2位まで記入する。（RC床版橋など主桁本数が不明確な橋梁の場合は床版厚を記入）

(記入例) 主構高さ $H = 1.536$ (m) \longrightarrow 1.54



(AP) 主桁主構間隔 (m) : ◆

主桁または主構間隔の最大値を、小数点以下2位まで記入する。（RC床版橋など主桁本数が不明確な橋梁の場合は‘*’を記入）

(記入例) 主構間隔 $L = 8.482$ (m) \longrightarrow 8.48

(AQ) 横桁間隔 (m)

横桁間隔の最大値を、小数点以下2位まで記入する。（横桁が存在しない場合は‘*’を記入）

(記入例) 横桁間隔 $L = 4.281$ (m) \longrightarrow 4.28

(AX) 床版材料C : ◆

床版材料について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
鋼 系	1
コンクリート系	2
そ の 他	9

(AZ) 床版種類使用形式C

該当する構造体の床版種類使用形式について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
一体型 (場所打主桁+場所打床版)	1 1
上乗せ型 (プレキャスト主桁+場所打床版)	2 1
間詰め型 (プレキャスト主桁+場所打床版)	3 1
一体型 (プレキャスト主桁+プレキャスト床版)	4 1
現場接合 (プレキャスト主桁+プレキャスト床版)	4 2
場所打床版	5 1
プレキャスト床版	6 1
鋼床版	7 1
合成床版	8 1
その他	9 9

構造コード ① 一体型 (場所打主構+場所打床版)



” ② 上乗せ型 (プレキャスト主構+場所打ち床版)



” ③ 間詰め型 (プレキャスト主構+場所打床版)



” ④ 一体型 (プレキャスト主構+プレキャスト床版)



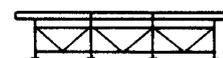
” ⑤ 現場接合型 (プレキャスト主構+プレキャスト床版)



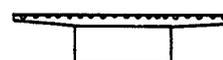
構造コード ⑥ 場所打床版 (一般鋼橋)



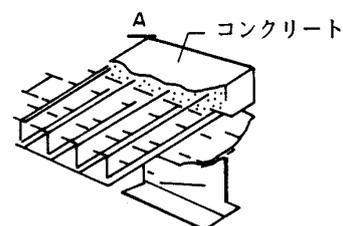
” ⑦ プレキャスト床版



” ⑧ 鋼床版



” ⑨ 合成床版



(BB) 床版橋軸直角方向支間 (m)

(BC) 床版橋軸方向支間 (m)

上記 (BB)、(BC) については、床版の支間について、記入例を参考に小数点以下2位まで記入する。

- ① 鋼床版以外の床版は該当する記入欄に床版支間長の最大値を記入する。
 - 鋼桁橋の場所打床版のように通常橋軸直角方向を床版支間として設計される場合は橋軸方向の記入欄は‘*’とする。
 - R C ラーメン高架橋の床版のように橋軸直角方向、橋軸方向とも床版支間を持つ場合は各々の記入欄に支間長を記入する。

(記入例-1)

(記入例-2)

桁橋、場所打床版の例

ラーメン高架橋の例

床版支間	
橋軸直角方向 (m)	橋軸方向 (m)
2.5.5	*

床版支間	
橋軸直角方向 (m)	橋軸方向 (m)
4.5.0	5.7.0

- ② 鋼床版の場合は橋軸直角方向の記入欄に横リブ支間、橋軸方向の記入欄に横リブ間隔 (= 縦リブ支間) を記入する。

(記入例)

横リブ支間 $l = 4.00\text{ m}$

横リブ間隔 $a = 1.847$

床版支間	
橋軸直角方向 (m)	橋軸方向 (m)
4.0.0	1.8.5

横リブ支間 横リブ間隔 縦リブ支間

(BD) 床版厚さ (cm) : ◆

床版の最小の厚さを小数点以下1位まで記入する。(コンクリート床版以外、及び床版橋は‘*’を記入)

(記入例) 厚さ H=25.5cm ——> 25.5

(BP) 架設年月日：◆

架設年月日を記入する。(上部工架設年) (年は西暦年で記入)

(記入例) 1983年10月14日 ——> 19831014

(BQ) 鋼上部工材質C

鋼上部工の主な材質について、該当するコードを記入する。

区 分	コード	区 分	コード
St39	10	SM490Y (SM50Y)	50
SS400 (SS41)	21	SM520 (SM53)	60
SS490 (SS50)	25	SM570 (SM58)	70
SM400 (SM41)	30	SMA570 (SMA58)	71
SMA400 (SMA41)	31	軽合金	80
SM490 (SM50)	40	その他	99
SM490A (SM50A)	41		
SMA490 (SMA50)	42		

注) () 内は旧材質名を示す。

(BT) 鋼上部工表面処理C：◆

鋼上部工の耐候性鋼材の表面処理について、該当するコードを記入する。(鋼上部工が耐候性鋼材でない場合は‘*’を記入する。)

区 分	コード
裸 使 用	0
一部表面処理	1
全 面 〃	2

(CB) 塗装年月日：◆

該当する構造体について、新設時の塗装年月日を記入する。なお、塗替時については「D019橋梁塗装歴」再塗装データで取り扱う。コンクリート橋の場合は‘*’を記入する。(年は西暦年で記入)

(記入例) 1986年 3月 15日 ——> 19860315

(CC) プライマー下塗塗料C : ◆

構造体の新設時でのプライマー及び下塗り塗料について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
長ばく型エッチングプライマー	1 1
短ばく型エッチングプライマー	1 2
有機質ジングリッチプライマー	1 3
無機質ジングリッチプライマー	1 4
塩化ゴム系プライマー	1 5
エポキシ樹脂プライマー	1 6
溶融亜鉛めっき	2 0
亜鉛溶射	2 1
アルミ溶射	2 2
鉛丹さび止めペイント1種	2 3
鉛丹さび止めペイント2種	2 4
鉛系さび止めペイント1種	2 5
鉛系さび止めペイント2種	2 6
亜酸化鉛さび止めペイント1種	2 7
亜酸化鉛さび止めペイント2種	2 8
塩基性クロム酸鉛さび止めペイント	2 9
ジアミド鉛さび止めペイント1種	3 1
ジアミド鉛さび止めペイント2種	3 2
ジクロメートさび止めペイント1種	3 3
ジクロメートさび止めペイント2種	3 4
鉛酸カルシウム下塗り塗料	3 5
塩化ゴム系下塗り塗料	4 5
エポキシ樹脂下塗り塗料	4 6
そ の 他	5 9

(CE) 中塗塗料C : ◆

(CG) 上塗塗料C : ◆

上記 (CE)、(CG) については、構造体の新設時での中塗塗料、上塗塗料について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
長油性フタル酸樹脂中塗り塗料	6 1
長油性フタル酸樹脂上塗り塗料	8 1
フェノール樹脂系M10塗料	7 1
エポキシ樹脂系M10塗料	7 2
アルミニウムペイント中塗り	6 2
タールエポキシ樹脂塗料	7 3
塩化ゴム中塗り塗料	6 5
塩化ゴム上塗り塗料	8 5
ポリウレタン樹脂用中塗り塗料	6 6
ポリウレタン樹脂上塗り塗料	8 6
フッ素樹脂用中塗り塗料	6 7
フッ素樹脂上塗り塗料	8 7
そ の 他	9 9

(CI) 塗装方法C : ◆

塗装方法について、該当するコードを記入する。コンクリート橋の場合は‘*’を記入する。

区 分	コード
ハケ塗り	1
エアレス	2
へ ラ	3
そ の 他	9

(CK) 工場塗装面積 (m²) : ◆

(CL) 本体塗装面積 (m²) : ◆

(CM) 高欄塗装面積 (m²) : ◆

上記 (CK) ~ (CM) については、該当する構造体の塗装面積を、小数点以下1位まで記入する。コンクリート橋の場合は‘*’を記入する。

(CN) 塗装色 : ◆

塗装色について代表的な色を選定し、日本塗装工業会の定めるコードを記入する。コンクリート橋の場合は‘*’を記入する。

(記入例) 緑 ———> A 1 2 - 6 3 7
ライトグレー ———> H 1 - 1 0 0 3

(C0) 塗装会社：◆

塗装会社名を10文字以内の日本語で記入する。コンクリート橋の場合は‘*’を記入する。

(CP) PC鋼材材質C

PC鋼材の材質について、該当するコードを記入する。

区 分	コード	区 分	コード
SWPR1A、SWPD1 (SWPR1)	11	SBPR930/1080 (SBPR95/110)	17
SWPR2 (SWPC2)	12	(SBPC110)	
SWPR7A (SWPC3)	13	SBPR930/1180 (SBPR95/125)	18
SWPR7B	14	(SBPC125)	
SWPR19	15	SWPR1B	20
(SBPR80/95)	16	SBPR930/1030 (SBPR80/105)	21
(SBPC95)		そ の 他	99

注) ()内は、旧材質名を示す。

(CR) PC鋼材緊張工法C

PC鋼材の緊張工法について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
フレッシュ工法	11
ディビダーク工法	12
BBRV工法	13
バウルレオンハルト工法	14
レオバ工法	15
MDC工法	16
SEEE工法	17
OBC工法	18
VSL工法	19
OSPA工法	20
そ の 他	99

(CT) 主桁コンクリート強度 (kgf/cm²) :◆

主桁のコンクリート強度 (σ_{ck}) を記入する。(鋼の場合は‘*’を記入)

(記入例) 強度 σ_{ck}=270 ———> 270

(CU) 主桁打設方法C

主桁のコンクリートの打設方法について、代表的なものを選定し該当するコードを記入する。

区 分	コード
ポンプ	1
バケット	2
工場打設（工場製品）	4
現場打設（不明）	5
その他	9

* コード3は欠番とする。

(CW) 主桁セメント種類C

主桁のセメントの種類について、代表的なものを選定し該当するコードを記入する。（工場打設（工場製品）の場合は、‘*’を記入）

区 分	コード
普通セメント	1
早強セメント	2
高炉セメント	3
その他	9

(CY) 主桁細骨材種類C

主桁細骨材の種類について、代表的なものを選定し該当するコードを記入する。（工場打設（工場製品）の場合は、‘*’を記入）

区 分	コード
川 砂	1
海 砂	2
砕 砂	3
その他	9

注)

注) その他には、山砂、陸砂を含む。

(DA) 主桁粗骨材種類C

主桁粗骨材の種類について、代表的なものを選定し該当するコードを記入する。（工場打設（工場製品）の場合は、‘*’を記入）

区 分	コード
-----	-----

川 砂 利	1
山 砂 利	2
海 砂 利	3
砕 石	4
そ の 他	9

(DC) 主桁粗骨材寸法 (mm)

主桁粗骨材の寸法を記入する。(鋼の場合は‘*’を記入)

(記入例) 寸法 25mm —————> 25

(DD) 主桁指定スランプ (cm)

主桁の指定スランプを、小数点以下1位まで記入する。(鋼の場合は‘*’を記入)

(記入例) 指定スランプ 7.0cm ——> 7.0

(DE) 主桁混和剤1 C

(DG) 主桁混和剤2 C

(DI) 主桁混和剤3 C

(DK) 主桁混和剤4 C

(DM) 主桁混和剤5 C

上記 (DE) ~ (DM) については、代表的な主桁混和剤の種類 (5種類以内) を選定し、該当するコードを記入する。

区 分	コード	区 分	コード
AE剤	11	流動化剤	41
減水剤	標準形	防 錆 剤	51
	遅延形	凝結遅延剤	61
	促進形	硬化促進剤	71
注1) AE減水剤	標準形	そ の 他	99
	遅延形		
	促進形		

注2)

注3)

注1) AE剤別添加形を含む

注2) 高性能減水剤を含む

注3) 超遅延剤を含む

(DO) 主桁アルカリ骨材対策1 C

(DQ) 主桁アルカリ骨材対策2 C

(DS) 主桁アルカリ骨材対策3 C

(DU) 主桁アルカリ骨材対策4 C

上記 (D0) ~ (DU) については、代表的な主桁アルカリ骨材対策を選定 (4 種類以内) し、該当するコードを記入する。

区 分	コード
特に対策をしない	0
反応性のない骨材を使用	1
J I S A 5 2 1 0 に規定される 低アルカリ形セメントを使用	2
アルカリ骨材反応抑制効果の確か められたセメントを使用する	3
コンクリートに導入されるアルカ リの総量を 3 kg/m ³ 以下にする	4
そ の 他	9

(DW) 床版コンクリート強度 (kgf/cm²) : ◆

(CT) 主桁コンクリート強度と同様に、床版コンクリート強度を記入する。(鋼床版の場合は ‘*’ を記入)

(DX) 床版打設方法 C

(CU) 主桁打設方法と同様に、床版打設方法について該当するコードを記入する。

(DZ) 床版セメント種類 C

(CW) 主桁セメント種類と同様に、床版のセメント種類について該当するコードを記入する。
(工場打設 (工場製品) の場合は ‘*’ を記入)

(EB) 床版細骨材種類 C

(CY) 主桁細骨材種類と同様に、床版細骨材種類について該当するコードを記入する。(工場打設 (工場製品) の場合は ‘*’ を記入)

(ED) 床版粗骨材種類 C

(DA) 主桁粗骨材種類と同様に、床版粗骨材種類について該当するコードを記入する。(工場打設 (工場製品) の場合は ‘*’ を記入)

(EF) 床版粗骨材寸法 (mm)

(DC) 主桁粗骨材寸法と同様に床版粗骨材寸法を記入する。(鋼床版の場合は ‘*’ を記入)

(EG) 床版指定スランプ (cm)

(DD) 主桁指定スランプと同様に、床版指定スランプを記入する。(鋼床版の場合は ‘*’ を記入)

(EH) 床版混和剤 1 C

(EJ) 床版混和剤 2 C

(EL) 床版混和剤 3 C

(EN) 床版混和剤 4 C

(EP) 床版混和剤 5 C

上記 (EH) ～ (EP) については、(DE) ～ (DM) 主桁混和剤と同様に、床版混和剤について該当するコードを記入する。

(ER) 床版アルカリ骨材対策 1 C

(ET) 床版アルカリ骨材対策 2 C

(EV) 床版アルカリ骨材対策 3 C

(EX) 床版アルカリ骨材対策 4 C

上記 (ER) ～ (EX) については、(DO) ～ (DU) 主桁アルカリ骨材対策と同様に、床版アルカリ骨材対策について該当するコードを記入する。

〔D016〕 橋 梁 下 部 工

この調査表は、橋梁の下部工に関するデータを登録するためのものである。

1. 一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

- 「D010橋梁基本」の作成単位毎とする。
- 下部工毎とする。

注) 橋梁が一箇所において、上下分離して架設されている橋梁に対し、下部工が一体構造の場合、下部工のデータは上り線側の橋梁で作成し、下り線側は作成しない。

2. 記入事項

(1) 工事番号

(2) 工事区分C

(3) 施設対応番号

(C) 地整C

(D) 事務所C

(E) 出張所C

(F) 路線

(G) 現旧区分C

(G-1) 現旧区分

(H) 整理番号1

(I) 整理番号2

(J) 整理番号3

(N) 補助番号

上記(1)、(2)、(3)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(G-1)、(H)、(I)、(J)、(N)の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編)」、§1. 共通注意事項」を参照のこと。

(Q) 分割区分C

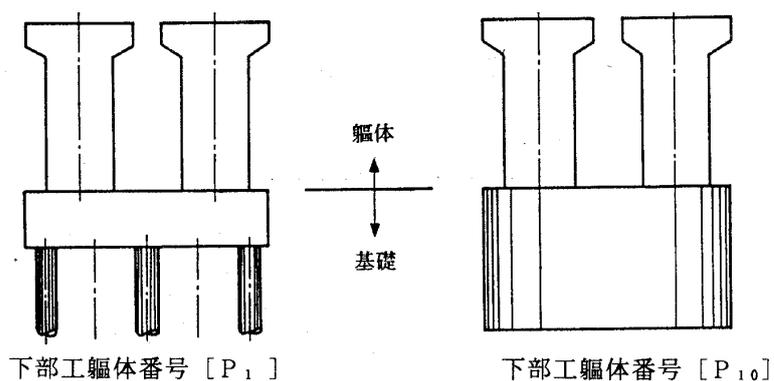


図-2. 躯体部分が分離構造で基礎が一体の構造の場合

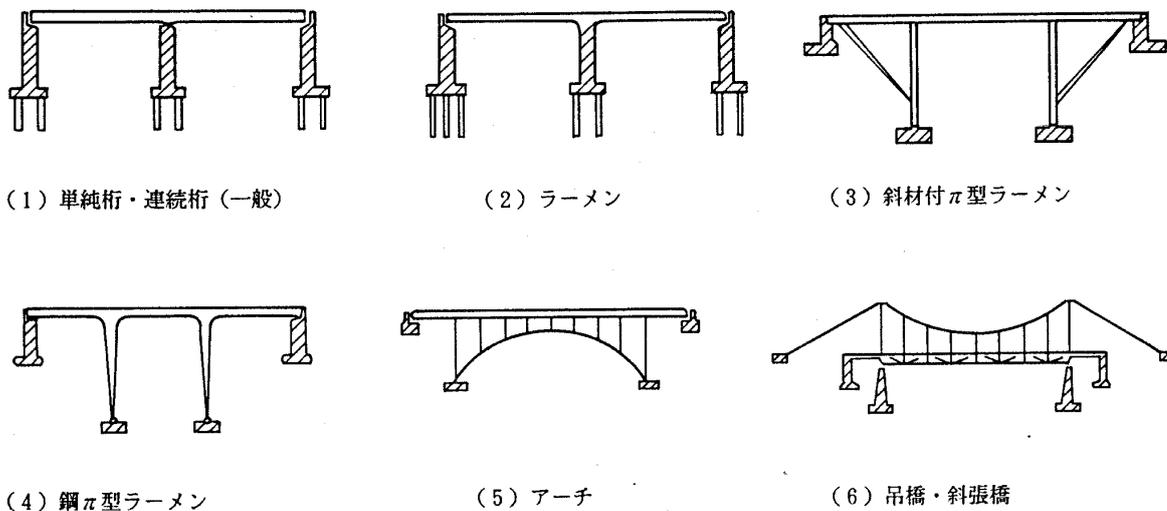
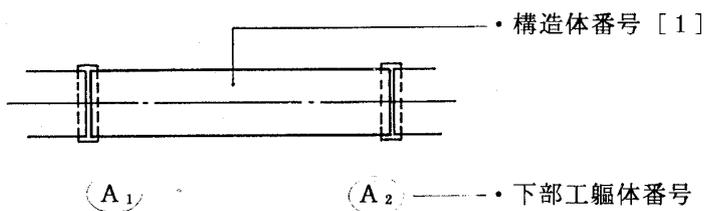


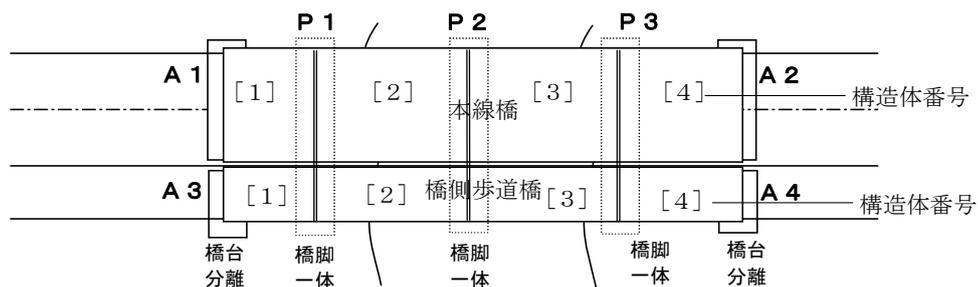
図-3 上部工・下部工の区分

(記入例)

① 1スパンの場合

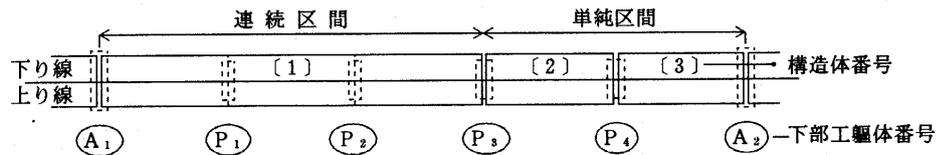


②自動車専用橋と自転車歩行者専用橋が架設されている場合

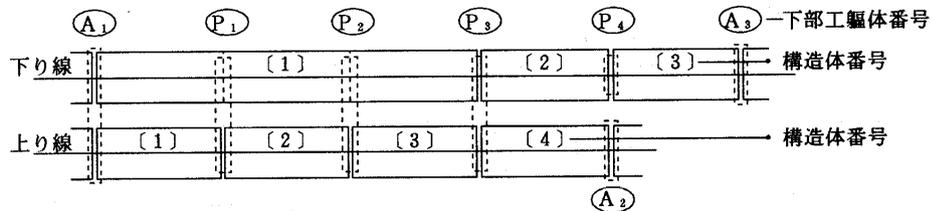


- ・本線橋、橋側歩道橋を含めて下部工躯体番号(上記例A1～A4、P1～P3)を付ける。
- ・本線橋と同一箇所に設置されている橋側歩道橋(D020)は、本線橋(D010)のコードと同一の橋梁コードを用いて作成する。(頁 D010-3を参照)
- ・本線橋専用の下部工は本線橋の下部工 (D016) で定義する。(上記例A1、A2)
- ・本線橋と橋側歩道橋が供用している下部工は本線橋の下部工 (D016) で定義する。(上記例P1、P2、P3)
- ・橋側歩道橋専用の下部工は橋側歩道橋の下部工 (D026) で定義する。(上記例A3、A4)

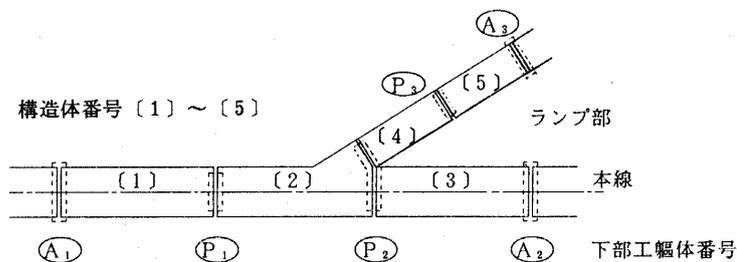
③ 連続と単純桁が架設されている場合



④ 上・下線に分離して架設されている場合



⑤ ランプ橋の場合



(T) 完成年月日

該当する下部工の完成年月日を記入する。(年は西暦年を記入)

(記入例) 1970年 6月17日 ——> 19700617

(U) 橋台橋脚構造形式C : ◆

該当する下部工橋脚の構造形式について、該当するコードを記入する。

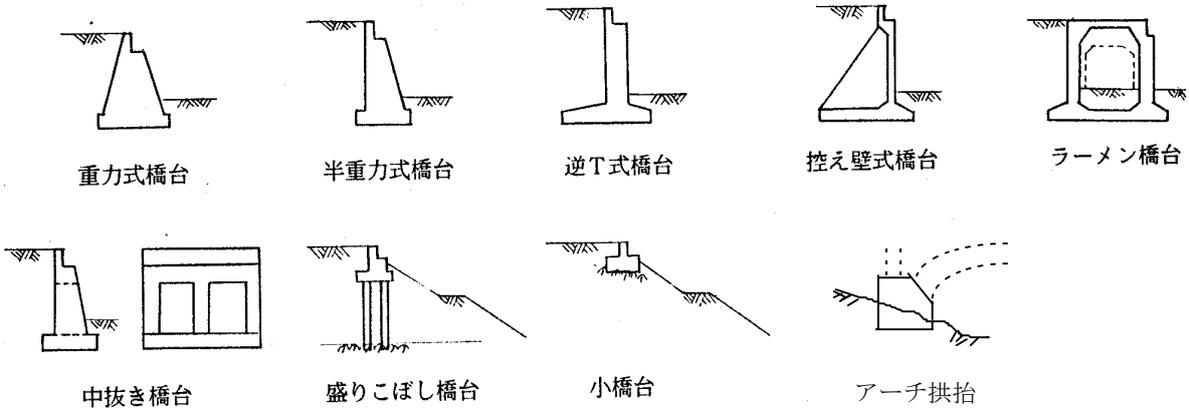
区 分	コード	区 分	コード
重力式橋台	1 1	二層ラーメン橋脚 (RC)	5 1
半重力式橋台	1 2	(SRC)	5 2
逆T式橋台	1 3	(鋼製)	5 3
控え壁式橋台	1 4	T型橋脚 (RC)	6 1
ラーメン橋台	1 5	(SRC)	6 2
中抜き橋台	1 6	(鋼製)	6 3
盛りこぼし橋台	1 7	T型橋脚 (RC)	6 4
小橋台	1 8	(柱円型) (SRC)	6 5
その他 (橋台)	1 9	(鋼製)	6 6
壁式橋脚 (RC)	2 1	T型橋脚 (RC)	6 7
(SRC)	2 2	(柱小判型) (SRC)	6 8
(鋼製)	2 3	(鋼製)	6 9
柱橋脚 (RC)	3 1	I型橋脚 (RC)	7 1
(SRC)	3 2	(SRC)	7 2
(鋼製)	3 3	(鋼製)	7 3
柱橋脚 (RC)	3 4	パイラント橋脚 (RC)	8 1
(1柱円) (SRC)	3 5	(SRC)	8 2
(鋼製)	3 6	(鋼製)	8 3
柱橋脚 (RC)	3 7	柱橋脚 (RC)	8 4
(1柱小判) (SRC)	3 8	(複数柱角) (SRC)	8 5
(鋼製)	3 9	(鋼製)	8 6
ラーメン橋脚 (RC)	4 1	柱橋脚 (RC)	8 7
(SRC)	4 2	(複数柱円) (SRC)	8 8
(鋼製)	4 3	(鋼製)	8 9
柱橋脚 (RC)	4 4	柱橋脚 (RC)	9 1
(1柱角) (SRC)	4 5	(複数柱小判) (SRC)	9 2
(鋼製)	4 6	(鋼製)	9 3
T型橋脚 (RC)	4 7	アーチ拱拾	9 8
(柱角型) (SRC)	4 8	その他 (橋脚)	9 9
(鋼製)	4 9		

○ 構造形式を記入するに当たっては、下部工の構造形式参考図を参照のこと。

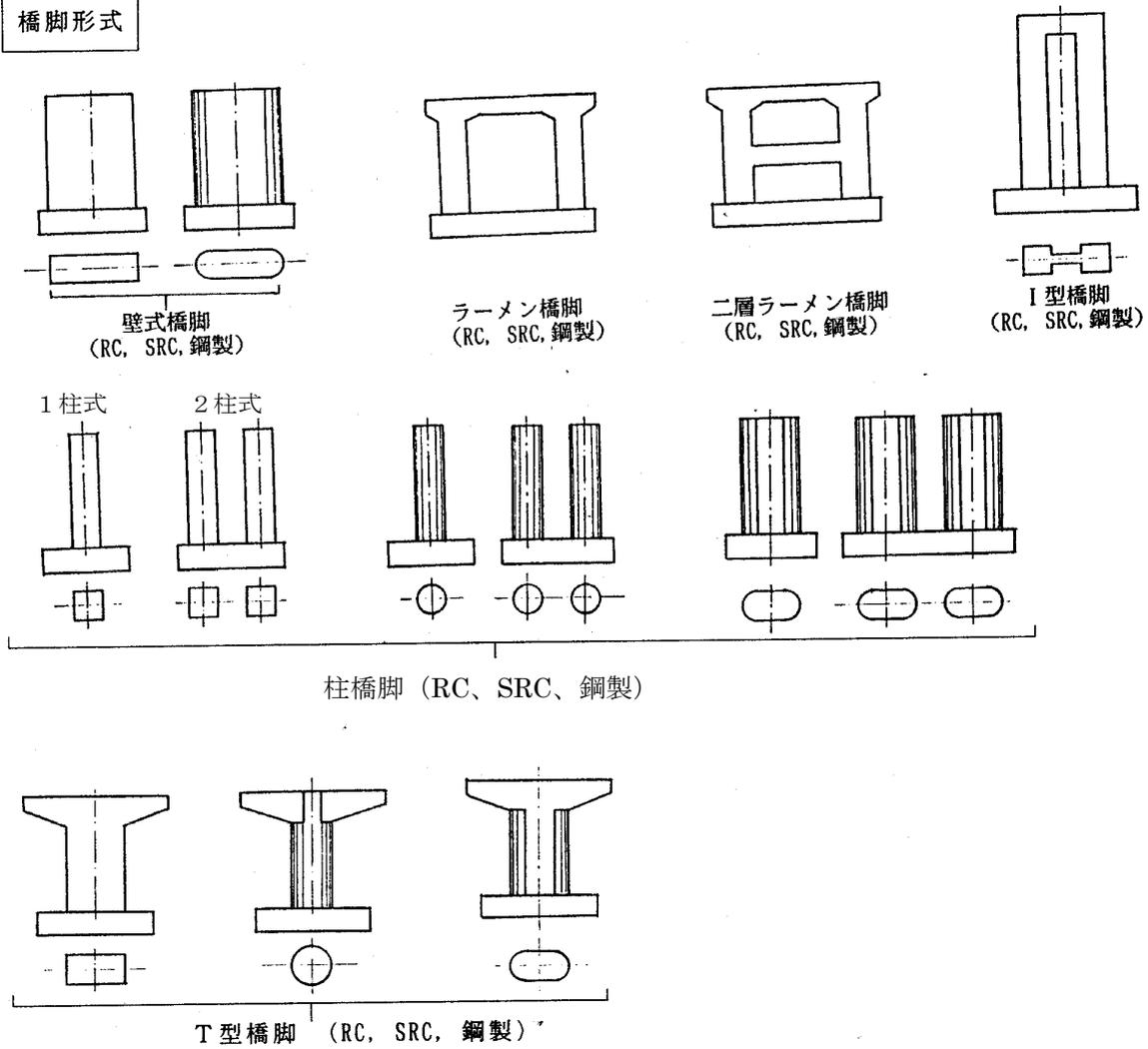
- ・柱橋脚と壁式橋脚の区分は、躯体部の短辺（厚さ）と長辺（幅）の比が1：3未満の場合は「柱橋脚」、1：3以上の場合は「壁式橋脚」とする。
- ・アーチ橋及び方丈ラーメン橋等の橋脚は「その他（橋脚）」とする。

○ 下部工の構造形式（参考図）

橋台形式

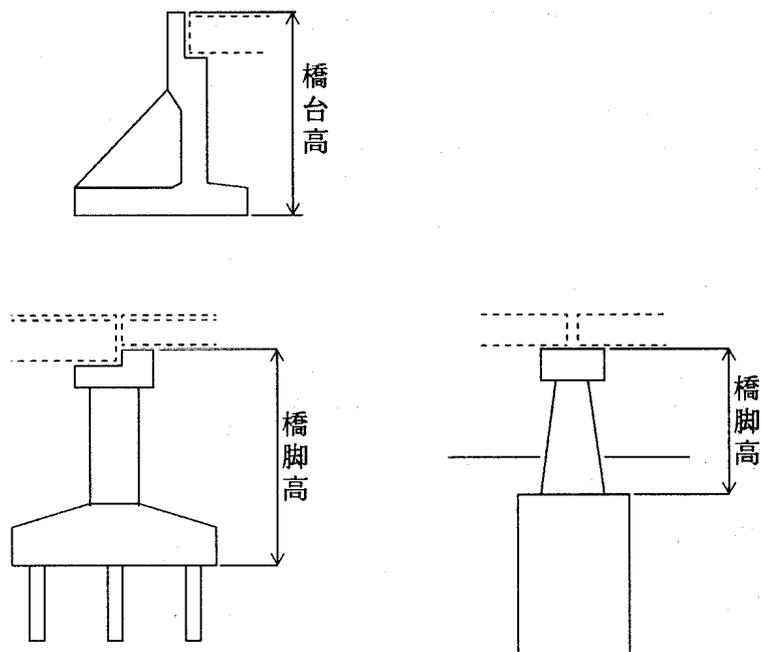


橋脚形式



(W) 橋台橋脚高さ (m) : ◆

- 橋台の場合、フーチング下面からパラペット天端までの高さを、小数点以下2位まで記入する。ただし、基礎がケーソンの場合はケーソン天端からとする。
- 橋脚の場合、フーチング下面から脊座面までの高さを、小数点以下2位まで記入する。ただし、基礎がケーソンの場合は、ケーソン天端からとする。



(Z) 基礎形式C : ◆

基礎形式について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
直接基礎	0
オープンケーソン	1
ニューマチックケーソン	2
鋼管ウエル	3
場所打ちぐい (深礎を含む)	4
既製鋼ぐい	5
既製RCぐい	6
既製PCぐい	7
木ぐい	8
その他 (PHCぐい)	9

(AL) 塗装年月日：◆

該当する下部工躯体について、新設時の塗装年月日を記入する。なお、塗替については「D019 橋梁塗装歴」再塗装データで取扱う。（年は西暦年で記入）

(記入例) 1986年 3月15日 ——> 19860315

(AM) プライマー下塗塗料C：◆

下部工躯体の新設時のプライマー及び下塗り塗料について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
長ばく型エッチングプライマー	1 1
短ばく型エッチングプライマー	1 2
有機質ジングリッチプライマー	1 3
無機質ジングリッチプライマー	1 4
塩化ゴム系プライマー	1 5
エポキシ樹脂プライマー	1 6
溶融亜鉛めっき	2 0
亜鉛溶射	2 1
アルミ溶射	2 2
鉛丹さび止めペイント1種	2 3
鉛丹さび止めペイント2種	2 4
鉛系さび止めペイント1種	2 5
鉛系さび止めペイント2種	2 6
亜酸化鉛さび止めペイント1種	2 7
亜酸化鉛さび止めペイント2種	2 8
塩基性クロム酸鉛さび止めペイント	2 9
ジアミド鉛さび止めペイント1種	3 1
ジアミド鉛さび止めペイント2種	3 2
ジクロメートさび止めペイント1種	3 3
ジクロメートさび止めペイント2種	3 4
鉛酸カルシウム下塗り塗料	3 5
塩化ゴム系下塗り塗料	4 5
エポキシ樹脂下塗り塗料	4 6
そ の 他	5 9

(AO) 中塗塗料C：◆

(AQ) 上塗塗料C : ◆

上記 (AO)、(AQ) については、下部工躯体の新設時の中塗り、上塗り塗料について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
長油性フタル酸樹脂中塗り塗料	6 1
長油性フタル酸樹脂上塗り塗料	8 1
フェノール樹脂系M1 0塗料	7 1
エポキシ樹脂系M1 0塗料	7 2
アルミニウムペイント中塗り	6 2
タールエポキシ樹脂塗料	7 3
塩化ゴム中塗り塗料	6 5
塩化ゴム上塗り塗料	8 5
ポリウレタン樹脂用中塗り塗料	6 6
ポリウレタン樹脂上塗り塗料	8 6
フッソ樹脂用中塗り塗料	6 7
フッソ樹脂上塗り塗料	8 7
そ の 他	9 9

(AS) 塗装方法C : ◆

下部工躯体の新設時の塗装方法について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
ハケ塗り	1
エアレス	2
へ ら	3
そ の 他	9

(AU) 工場塗装面積 (㎡) : ◆

下部工躯体の工場塗装面積を、小数点以下1位まで記入する。コンクリート橋の場合は‘*’を記入する。

(記入例) 塗装面積 240.8㎡ ——> 240.8

(AV) 本体塗装面積 (㎡) : ◆

下部工躯体の本体塗装面積を、小数点以下1位まで記入する。コンクリート橋の場合は‘*’を記入する。

(AW) 塗装色 : ◆

塗装色について代表的な色を選定し、日本塗装工業会の定めるコードを記入する。コンクリート橋の場合は‘*’を記入する。

(記入例) 緑 —————> A12-637
 ライトグレー ——> H1-1003

(AX) 塗装会社：◆

10文字以内の日本語で記入する。コンクリート橋の場合は‘*’を記入する。

(AY) PC鋼材材質C

PC鋼材の材質について、該当するコードを記入する。(PC工法以外は‘*’を記入)

区 分	コード	区 分	コード
SWPR1A、SWPD1 (SWPR1)	11	SBPR930/1080 (SBPR95/110)	17
SWPR2 (SWPC2)	12	(SBPC110)	
SWPR7A (SWPC3)	13	SBPR930/1180 (SBPR95/125)	18
SWPR7B	14	(SBPC125)	
SWPR19	15	SWPR1B	20
(SBPR80/95)	16	SBPR930/1030 (SBPR80/105)	21
(SBPC95)		そ の 他	99

注) () 内は、旧材質名を示す。

(BA) PC鋼材緊張工法C

PC鋼材の緊張工法について、該当するコードを記入する。(PC工法以外は‘*’を記入)

区 分	コード
フレッシュナー工法	11
ディビダーク工法	12
BBRV工法	13
バウルレオンハルト工法	14
レオバ工法	15
MDC工法	16
SEEE工法	17
OBC工法	18
VSL工法	19
OSPA工法	20
そ の 他	99

(BC) 躯体コンクリート強度 (kgf/cm²) :◆

下部工躯体のコンクリート強度（ σ_{ck} ）を記入する。鋼橋脚の場合は‘*’を記入する。

（記入例） 強度 $\sigma_{ck}=240$ ——> 240

(BD) 躯体打設方法C

下部工躯体のコンクリートの打設方法について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。

区 分	コード
ポンプ	1
バケット	2
水中コンクリート	3
工場打設（工場製品）	4
現場打設（不明）	5
その他	9

(BF) 躯体セメント種類C

下部工躯体のセメントの種類について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。

区 分	コード
普通セメント	1
早強セメント	2
高炉セメント	3
そ の 他	9

(BH) 躯体細骨材種類C

下部工躯体の細骨材の種類について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。

区 分	コード
川 砂	1
海 砂	2
砕 砂	3
そ の 他	9

注)

注) その他には、山砂、陸砂を含む。

(BJ) 躯体粗骨材種類C

躯体粗骨材の種類について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。

区 分	コード
川 砂 利	1
山 砂 利	2
海 砂 利	3
砕 石	4
そ の 他	9

(BL) 躯体粗骨材寸法 (mm)

躯体粗骨材の寸法を記入する。鋼橋脚の場合は‘*’を記入する。

(記入例) 寸法 25mm —————> 25

(BM) 躯体指定スランプ (cm)

躯体の指定スランプを、小数点以下1位まで記入する。鋼橋脚の場合は‘*’を記入する。

(記入例) 指定スランプ 7.0cm ——> 7.0

(BN) 躯体混和剤1C

(BP) 躯体混和剤2C

(BR) 躯体混和剤3C

(BT) 躯体混和剤4C

(BV) 躯体混和剤5C

上記 (BN) ~ (BV) については、代表的な混和剤の種類 (5種類以内) を選定し、該当するコードを記入する。

区 分	コード	区 分	コード
AE剤	11	流動化剤	41
減水剤	標準形	防 錆 剤	51
	遅延形	凝結遅延剤	61
	促進形	硬化促進剤	71
注1) AE減水剤	標準形	そ の 他	99
	遅延形		
	促進形		

注2)

注3)

注1) AE剤別添加形を含む

注2) 高性能減水剤を含む

注3) 超遅延剤を含む

(BX) 躯体アルカリ骨材対策1C

(BZ) 躯体アルカリ骨材対策2C

(CB) 躯体アルカリ骨材対策 3 C

(CD) 躯体アルカリ骨材対策 4 C

上記 (BX) ~ (CD) については、代表的なアルカリ骨材対策を選定 (4 種類以内) し、該当するコードを記入する。

区 分	コード
特に対策をしない	0
反応性のない骨材を使用	1
J I S A 5 2 1 0 に規定される 低アルカリ形セメントを使用	2
アルカリ骨材反応抑制効果の確か められたセメントを使用する	3
コンクリートに導入されるアルカ リの総量を 3 kg/m^3 以下にする	4
そ の 他	9

(CF) 基礎コンクリート強度 (kgf/cm^2)

(BC) 躯体コンクリート強度と同様に、基礎コンクリート強度について該当するコードを記入する。

(CG) 基礎打設方法 C

(BD) 躯体打設方法 C と同様に、基礎の打設方法について該当するコードを記入する。

(CI) 基礎セメント種類 C

(BF) 躯体セメント種類 C と同様に、基礎のセメント種類について該当するコードを記入する。

(CK) 基礎細骨材種類 C

(BH) 躯体細骨材種類 C と同様に、基礎の細骨材種類について該当するコードを記入する。

(CM) 基礎粗骨材種類 C

(BJ) 躯体粗骨材種類 C と同様に、基礎の粗骨材種類について該当するコードを記入する。

(CO) 基礎粗骨材寸法 (mm)

(BL) 躯体粗骨材寸法と同様に、基礎の粗骨材寸法を記入する。

(CP) 基礎指定スランプ (cm)

(BM) 躯体指定スランプと同様に、基礎の指定スランプを記入する。

(CQ) 基礎混和剤 1 C

(CS) 基礎混和剤 2 C

(CU) 基礎混和剤 3 C

(CW) 基礎混和剤 4 C

(CY) 基礎混和剤 5 C

上記 (CQ) ～ (CY) については、(BN) ～ (BV) 躯体混和剤と同様に、基礎混和剤について該当するコードを記入する。

(DA) 基礎アルカリ骨材対策 1 C

(DC) 基礎アルカリ骨材対策 2 C

(DE) 基礎アルカリ骨材対策 3 C

(DG) 基礎アルカリ骨材対策 4 C

上記 (DA) ～ (DG) については、(BX) ～ (CD) 躯体アルカリ骨材対策と同様に、基礎アルカリ骨材対策について該当するコードを記入する。

(DI) 適用示方書 1 C

(DK) 適用示方書 2 C

(DM) 適用示方書 3 C

上記 (DI) ~ (DM) については、該当する構造体 (下部工) の適用示方書について代表的な適用示方書 (3種類以内) を選定し、該当するコードを記入する。

書名	発行年	コード
道路構造に関する細則案	大正15年	1 1 0
鋼道路橋設計示方書案, 鋼道路橋製作示方書案	昭和14年	1 1 1
鋼道路橋設計示方書	昭和31年	1 1 2
〃 (改訂)	昭和39年	1 1 3
鋼道路橋製作示方書	昭和31年	1 1 4
〃 (改訂)	昭和39年	1 1 5
電弧溶接鋼道路橋設計示方書	昭和15年	1 1 6
溶接鋼道路橋示方書	昭和32年	1 1 7
〃 (改訂)	昭和39年	1 1 8
〃 (設計に関する追補)	昭和42年	1 1 9
〃 (製作に関する追補)	昭和43年	1 2 0
鋼道路橋の合成桁設計施工指針	昭和34年	1 2 1
〃 (改訂)	昭和40年	1 2 2
鉄筋コンクリート道路橋設計示方書	昭和39年	1 2 5
プレストレスコンクリート道路橋設計示方書	昭和43年	1 2 6
道路橋下部構造設計指針「くい基礎の設計編」	昭和39年	1 3 0
〃 「くい基礎の設計編 (改訂)」	昭和51年	1 3 1
〃 「調査及び設計一般編」	昭和41年	1 3 2
〃 「橋台, 橋脚の設計編」	昭和43年	1 3 3
〃 「直接基礎の設計編」	昭和43年	1 3 4
〃 「くい基礎の施工編」	昭和43年	1 3 5
〃 「ケーソン基礎の設計編」	昭和45年	1 3 6
〃 「場所打ぐいの設計, 施工編」	昭和48年	1 3 7
〃 「ケーソン基礎の施工編」	昭和52年	1 3 8
道路橋耐震設計指針	昭和47年	1 3 9
道路橋示方書 共通編 鋼橋編	昭和47年	1 4 1
〃 共通編 鋼橋編 (改訂)	昭和55年	1 4 2
〃 共通編 コンクリート橋編	昭和53年	1 4 3
〃 共通編 下部構造編	昭和55年	1 4 4
〃 耐震設計編	昭和55年	1 4 5
道路橋示方書 共通編 鋼橋編	平成 2年	1 9 0
(平成元年 共通編 コンクリート橋編	平成 2年	1 9 1
示方書) 共通編 下部構造編	平成 2年	1 9 2
耐震設計編	平成 2年	1 9 3
道路橋示方書 共通編 鋼橋編	平成 6年	1 6 1
(平成6年 共通編 コンクリート橋編	平成 6年	1 6 2
示方書) 共通編 下部構造編	平成 6年	1 6 3
道路橋示方書 共通編 鋼橋編	平成 8年	1 6 5
(平成8年 共通編 コンクリート橋編	平成 8年	1 6 6
示方書) 共通編 下部構造編	平成 8年	1 6 7
耐震設計編	平成 8年	1 6 8

(次頁に続く)

書名	発行年	コード
道路橋示方書 共通編 鋼橋編	平成14年	146
(平成14年 共通編 コンクリート橋編 示方書)	平成14年	147
共通編 下部構造編	平成14年	148
耐震設計編	平成14年	149
鉄筋コンクリート標準示方書	昭和6年	150
〃	昭和11年	151
〃	昭和15年	152
コンクリート標準示方書	昭和24年	153
〃	昭和26年	154
〃	昭和33年	155
〃	昭和42年	156
〃	昭和49年	157
〃	昭和52年	158
〃	昭和55年	159
〃	昭和61年	160
コンクリート標準示方書	平成3年	173
〃	平成6年	174
〃	平成8年	175
〃	平成11年	176
〃	平成14年	177
プレストレスコンクリート設計施工指針	昭和30年	170
〃	昭和36年	171
プレストレスコンクリート標準示方書	昭和53年	172
鋼道路橋の一方鉄筋コンクリート床版の配力鉄筋の設計について	昭和42年	181
鋼道路橋の鉄筋コンクリート床版の設計	昭和46年	182
くい頭とフーチングの結合部の設計について	昭和47年	183
ケーソン刃口の設計について	昭和48年	184
特定の路線にかかる橋、高架の道路等の技術基準について	昭和48年	185
道路橋鉄筋コンクリート床版の設計・施工について	昭和53年	186
道路橋鉄筋コンクリート床版の設計・施工指針	昭和59年	187
小規模吊橋指針	昭和59年	188

(DU) 躯体鋼材質C

躯体の鋼材質について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。(鋼橋脚以外は‘*’を記入)

区分	コード	区分	コード
St39	10	SM490Y (SM50Y)	50
SS400 (SS41)	21	SM520 (SM53)	60
SS490 (SS50)	25	SM570 (SM58)	70
SM400 (SM41)	30	SMA570 (SMA58)	71
SMA400 (SMA41)	31	軽合金	80

注)

区 分	コード	区 分	コード
SM490 (SM50)	40	その他	99
SM490A (SM50A)	41		
SMA490 (SMA50)	42		

注)

注) () 内は旧材質名を示す。

[D017] 橋梁径間

この調査表は、橋梁の支間及び支承構造に関するデータを登録するためのものである。

1. 一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

- 「D010橋梁基本」の作成単位毎かつ「D015橋梁上部工」の作成単位毎とする。
- 支間毎に作成する。

2. 記入事項

- (1) 工事番号
- (2) 工事区分C
- (3) 施設対応番号
- (C) 地整C
- (D) 事務所C
- (E) 出張所C
- (F) 路線
- (G) 現旧区分C
- (G-1) 現旧区分
- (H) 整理番号1
- (I) 整理番号2
- (J) 整理番号3
- (N) 補助番号

上記(1)、(2)、(3)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(G-1)、(H)、(I)、(J)、(N)の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編)」、§1. 共通注意事項」を参照のこと。

(Q) 分割区分C

該当する橋梁の親表(「D010橋梁基本」)で記入した分割区分コードを記入する。

(Q-1) 分割区分

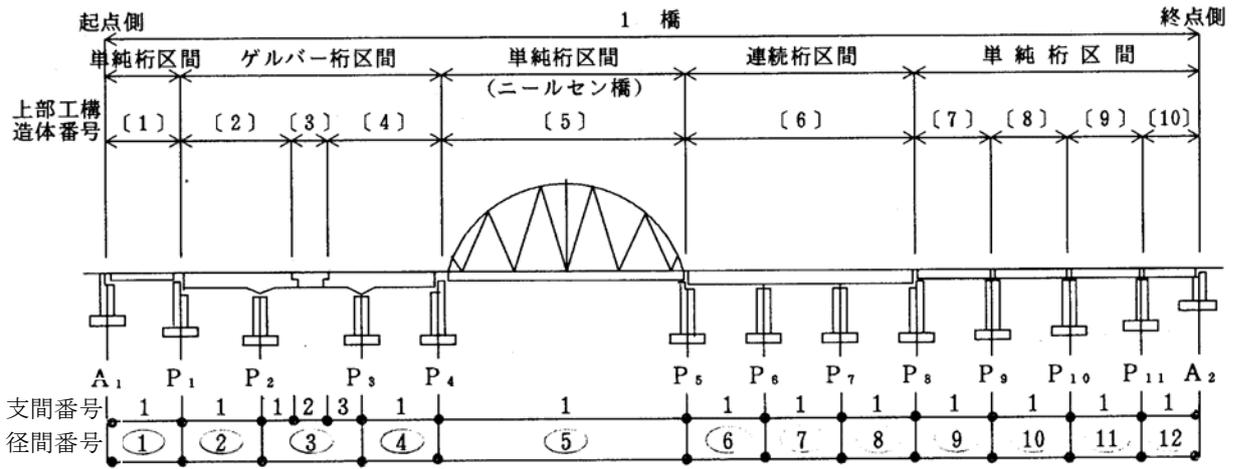
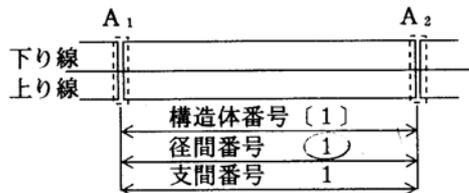


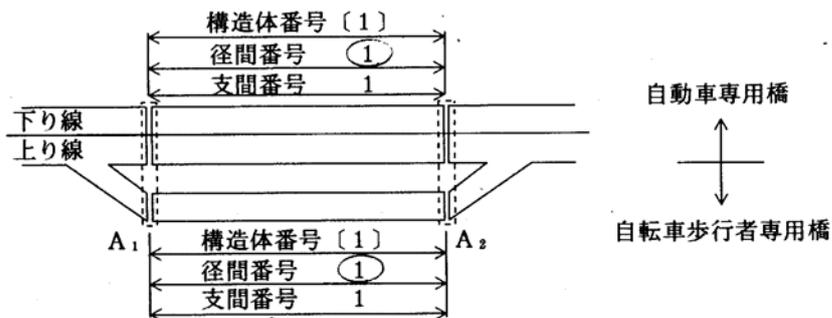
図-1 径間番号・支間番号の付与の例

(記入例-1) 径間番号及び支間番号の付し方

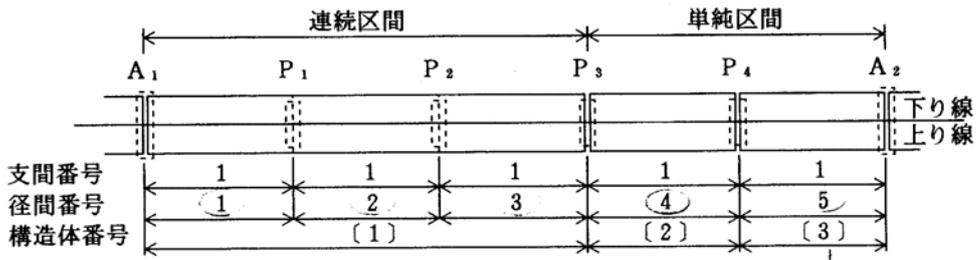
① 自動車専用橋の場合



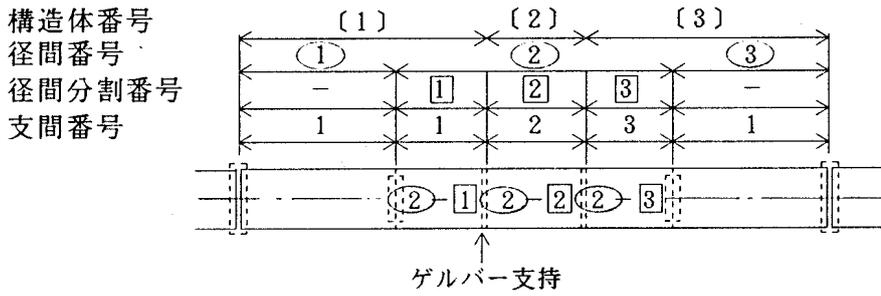
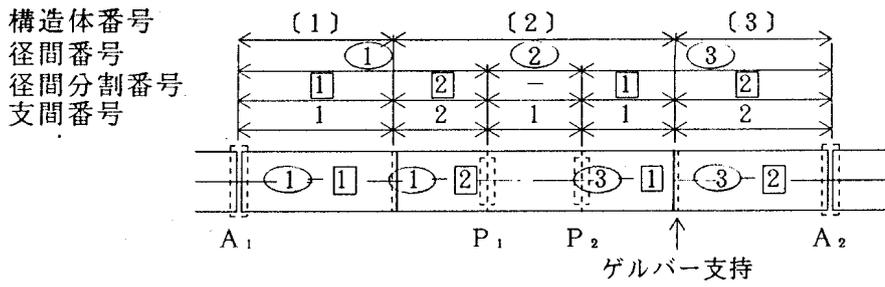
② 自動車専用橋と自転車歩行者専用橋が架設されている場合



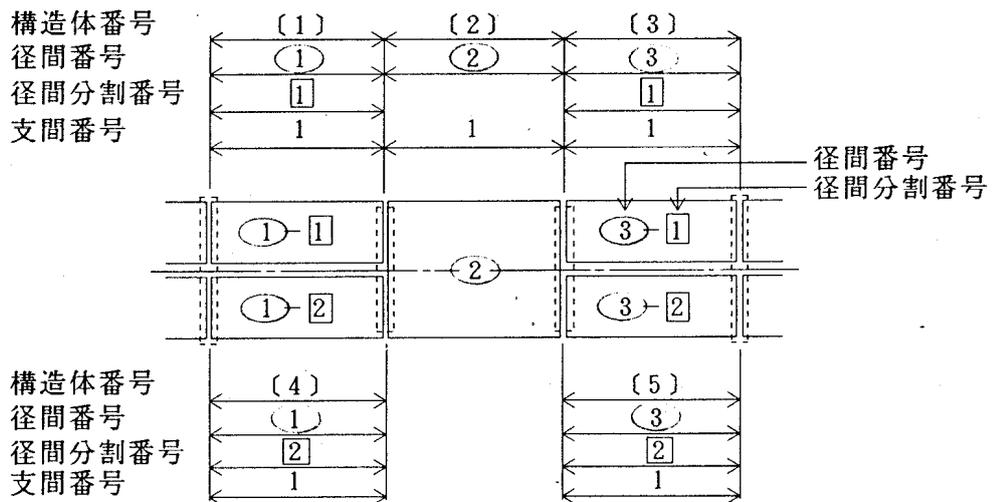
③ 連続と単純桁が架設されている場合



② ゲルバー桁の場合

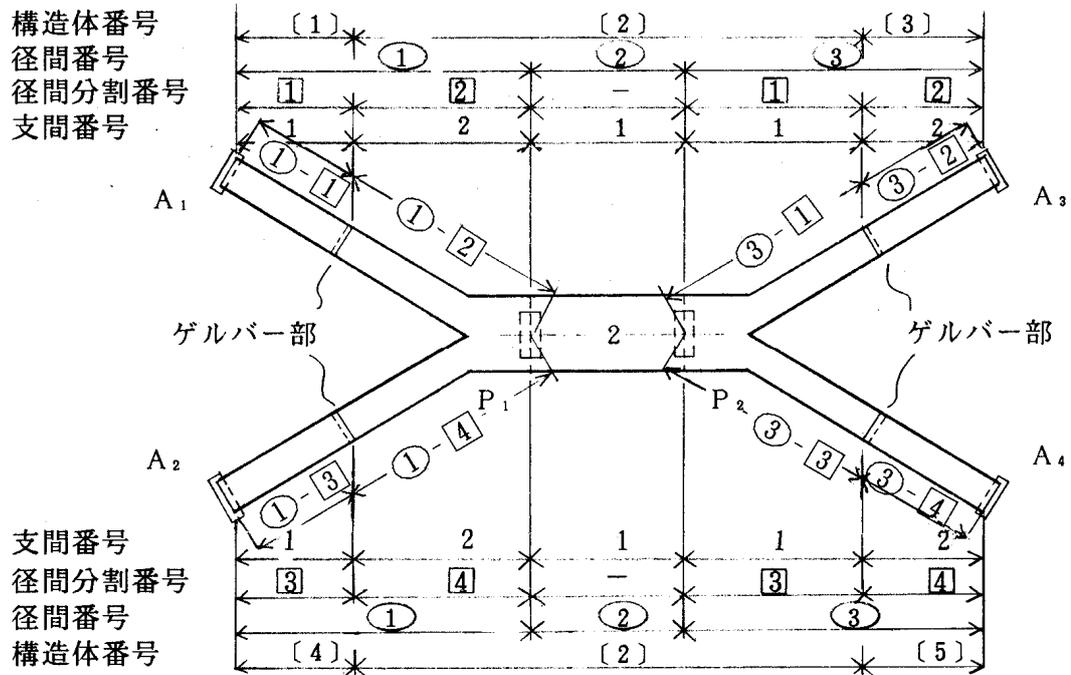


③ 分岐している橋梁の場合（その1）



④ 分岐している橋梁の場合（その2）

下図のように上部工の構造体が5種類存在する場合、まず、径間は①～③までの3径間とし、①と③に対する径間は、各々2つの径間分割を行う必要がある。また、①と③の径間は、ゲルバー形式のため、さらに1、2の支間番号を付ける。



(W) 支間長 (m) : ◆

上部工の支間長（径間長）を、小数点以下3位まで記入する。

(記入例) 支間長 $L = 58.483\text{m}$ → 58.483

(X) 起点側支承種類C : ◆

該当する支間の支承構造（支承及び落橋防止構造の種類）を、起点側・終点側に分けて記入する。ただし、単純桁については、1つの支間で起点側・終点側の別に2組の支承データを持つが、連続桁等については2径間目からは支承構造が重複する事から2径間目からは終点側にデータを記入し、起点側は‘*’とする。

起点側の支承の種類について、該当するコードを記入する。

区 分	コード	区 分	コード
固定支承（不明）	1 0	可動支承（不明）	2 0
線 支承	1 1	線 支承	2 1
ピン支承	1 2	1本ローラー支承	2 5
ピボット支承	1 3	複数ローラー支承	2 6
コンクリートヒンジ支承	1 4	ロッカー支承	2 7
支承板支承	1 8	支承板支承	2 8
ゴム支承	1 9	ゴム支承	2 9
		剛構造（ラーメン）	8 0
		その他	9 9

注)

注) 固定か可動か分からない場合は、下1桁の数字を用い頭に0を付した2桁で記入する。

(記入例) ゴム支承 —————> 0 9

(Z) 起点側落橋防止1 C : ◆

(AB) 起点側落橋防止2 C : ◆

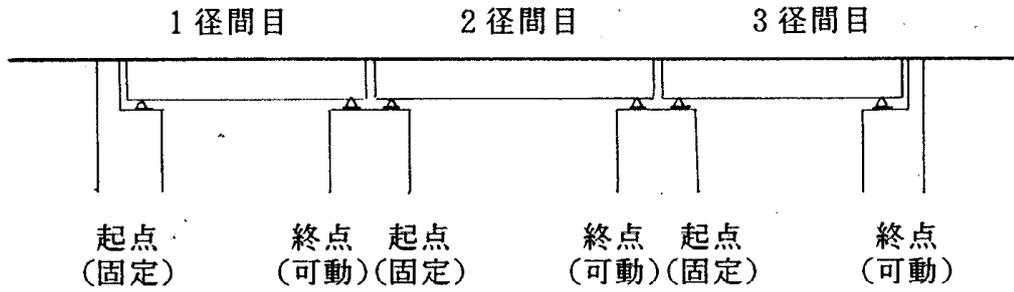
(AD) 起点側落橋防止3 C : ◆

上記 (Z) ~ (AD) については、代表的な落橋防止構造の種類 (3種類以内) を選定し、該当するコードを記入する。

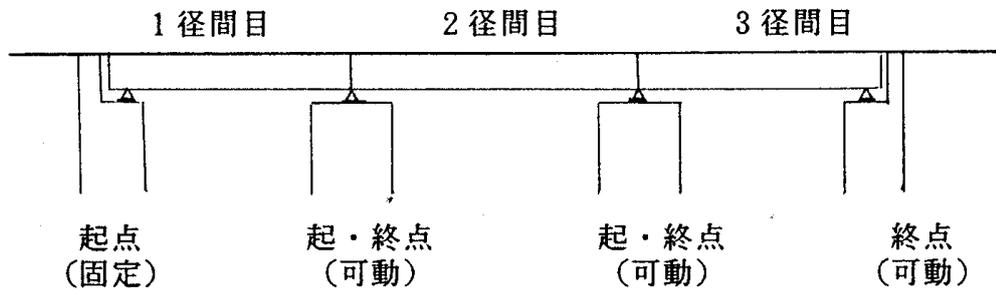
区 分	コード
な し	0
支承の移動制限装置	1
桁端から下部構造頂部縁端までの桁の長さの確保	2
桁と下部構造を連結する構造	3
桁または下部構造に突起を設ける構造	4
2連の桁を相互に連結する構造	5
そ の 他	9

(記入例)

① 単純桁の場合



② 連続桁の場合



	1 径間目				2 径間目				3 径間目							
	起点側		終点側		起点側		終点側		起点側		終点側					
	支 承 種 類	落 防 橋 止														
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
① 単純桁の場合	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0
② 連続桁の場合	1	0	0	0	2	0	0	0	*	0	0	0	2	0	0	0

(AF) 終点側支承種類 C : ◆

(X) 起点側支承種類 C と同様に、終点側支承種類について該当するコードを記入する。

(AH) 終点側落橋防止 1 C : ◆

(AJ) 終点側落橋防止 2 C : ◆

(AL) 終点側落橋防止 3 C : ◆

上記 (AH) ~ (AL) については、(Z) ~ (AD) 起点側落橋防止 C と同様に、終点側落橋防止について該当するコードを記入する。

(AN) 起点側躯体番号 1 : ◆

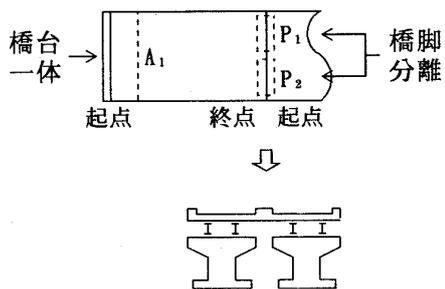
(AO) 起点側躯体番号 2 : ◆

(AP) 終点側躯体番号 1 : ◆

(AQ) 終点側躯体番号 2 : ◆

上記 (AN) ~ (AQ) については該当する径間に対する下部工の躯体番号を起点側, 終点側を記入する。記入方法については、「D016橋梁下部工 記入事項 (S)」の付し方に合わせる。

(記入例) 下図に示す状態の場合



・「D016橋梁下部工」の記入—> A 1
P 1
P 2

・本書式での記入 ———> 起点側 終点側
躯体番号 1 A 1 P 1
躯体番号 2 * P 2

〔D019〕 橋 梁 塗 装 歴

この調査表は、橋梁の再塗装（塗装履歴）に関するデータを登録するためのものである。

1. 一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

- 「D010橋梁基本」の作成単位毎とする。
- 過去において塗装履歴がある場合、再塗装が行われた場合、上部工は径間毎に下部工は躯体毎に作成する。

2. 記入事項

- (1) 工事番号
- (2) 工事区分C
- (3) 施設対応番号
- (C) 地整C
- (D) 事務所C
- (E) 出張所C
- (F) 路線
- (G) 現旧区分C
- (G-1) 現旧区分
- (H) 整理番号1
- (I) 整理番号2
- (J) 整理番号3
- (N) 補助番号

上記(1)、(2)、(3)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(G-1)、(H)、(I)、(J)、(N)の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編)」、§1. 共通注意事項を参照のこと。

- (Q) 分割区分C

該当する橋梁の親表（「D010橋梁基本」）で記入した分割区分コードを記入する。

- (Q-1) 分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

- ・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。
- ・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

(S) 径間又は躯体番号：◆

上部工の場合は、「D017橋梁径間」で作成されている橋梁分割毎の径間番号と径間分割番号ま
でを記入する。

下部工の場合は、「D016橋梁下部工」で作成されている躯体番号を記入する。

(記入例)

上部工の場合

下部工の場合

○径間分割がない場合

- ・「D017橋梁径間」 径間番号 一→ 1
の記入 径間分割番号 一→ 0
- ・本書式の記入 径間又は
躯体番号 一→ 1 0
- ・「D016橋梁下部工」 躯体番号 一→ A 1
の記入
- ・本書式の記入 径間又は
躯体番号一→ A 1

○径間分割がある場合

- ・「D017橋梁径間」 径間番号 一→ 2
の記入 径間分割番号 一→ 1
- ・本書式の記入 径間又は
躯体番号 一→ 2 1

(T) 上下部工区分C：◆

上・下部工に関するデータの作成区分について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
上 部 工	1
下 部 工	2

(V) 塗装年月日：◆

再塗装を行った年月日を記入する。(年は西暦年で記入)

(記入例) 1988年 8月21日 一→ 19880821

(W) プライマー下塗塗料C：◆

プライマー及び下塗り塗料について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
長ばく型エッチングプライマー	1 1
短ばく型エッチングプライマー	1 2
有機質ジングリッチプライマー	1 3
無機質ジングリッチプライマー	1 4
塩化ゴム系プライマー	1 5
エポキシ樹脂プライマー	1 6
溶融亜鉛めっき	2 0
亜鉛溶射	2 1
アルミ溶射	2 2
鉛丹さび止めペイント 1 種	2 3
鉛丹さび止めペイント 2 種	2 4
鉛系さび止めペイント 1 種	2 5
鉛系さび止めペイント 2 種	2 6
亜酸化鉛さび止めペイント 1 種	2 7
亜酸化鉛さび止めペイント 2 種	2 8
塩基性クロム酸鉛さび止めペイント	2 9
ジアミド鉛さび止めペイント 1 種	3 1
ジアミド鉛さび止めペイント 2 種	3 2
ジクロメートさび止めペイント 1 種	3 3
ジクロメートさび止めペイント 2 種	3 4
鉛酸カルシウム下塗り塗料	3 5
塩化ゴム系下塗り塗料	4 5
エポキシ樹脂下塗り塗料	4 6
そ の 他	5 9

(Y) 中塗塗料C : ◆

(AA) 上塗塗料C : ◆

上記 (Y)、(AA) については、中塗り、上塗り塗料について該当するコードを記入する。

区 分	コード
長油性フタル酸樹脂中塗り塗料	6 1
長油性フタル酸樹脂上塗り塗料	8 1
フェノール樹脂系M10塗料	7 1
エポキシ樹脂系M10塗料	7 2
アルミニウムペイント中塗り	6 2
タールエポキシ樹脂塗料	7 3
塩化ゴム中塗り塗料	6 5
塩化ゴム上塗り塗料	8 5
ポリウレタン樹脂用中塗り塗料	6 6

区 分	コード
ポリウレタン樹脂上塗り塗料	86
フッソ樹脂用中塗り塗料	67
フッソ樹脂上塗り塗料	87
そ の 他	99

(AC) 塗装方法C

塗装方法について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
ハケ塗り	1
エアレス	2
へ ラ	3
そ の 他	9

(AE) 清浄度C

清浄度について代表的なものを選定し、該当するコードを記入する。

区 分 (素地調製程度)	コード
1種 さび、旧塗膜を除去し、鋼面を現して清浄にする。	1
2種 同 上 ただし、くぼみ部分や狭隘部分にはさびや塗膜が残存する。	2
3種 塗膜劣化の著しい部分は、さび旧塗膜を除去して鋼面を現し活膜の部分は、粉化物、汚れを落として清浄にする。	3
4種 活膜上の粉化物、汚れを落として清浄にする。	4

(AG) 本体塗装面積 (㎡) : ◆

本体に対する再塗装面積を、小数点以下1位まで記入する。

(記入例) 塗装面積 1256.71㎡ ———> 1256.7

(AH) 高欄塗装面積 (㎡) : ◆

高欄に対する再塗装面積を、小数点以下1位まで記入する。

(AI) 塗装色 : ◆

塗装色について代表的なものを選定し、日本塗装工業会の定めるコードを記入する。

(AJ) 塗替え程度C

該当する径間（上部工）あるいは下部工の再塗装における塗替えの程度について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
全 部 塗 装	1
一 部 塗 装	2
そ の 他	9

(AL) 塗装費用（百万円）

データ作成毎に該当する径間（上部工）あるいは下部工に対する再塗装の費用を記入する。

（記入例） 再塗装 1 3 2 0 万円 ——> 1 3

(AM) 備考

塗料会社名や特記事項があれば50文字以内の日本語で記入する。

[D01A] 橋梁補修歴

この調査表は、橋梁の補修・補強及び改良に関するデータを登録するためのものである。

補修・補強とは：現橋の機能維持を目的とする。

改良とは：橋梁の機能向上（幅員の増加など）を目的とする。

1. 一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

- 「D010橋梁基本」の作成単位毎とする。
- 補修・補強及び改良が行われた場合、上部工は径間毎に、下部工は躯体毎に作成する。

2. 記入事項

- (1) 工事番号
- (2) 工事区分C
- (3) 施設対応番号
- (C) 地整C
- (D) 事務所C
- (E) 出張所C
- (F) 路線
- (G) 現旧区分C
- (G-1) 現旧区分
- (H) 整理番号1
- (I) 整理番号2
- (J) 整理番号3
- (N) 補助番号

上記(1)、(2)、(3)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(G-1)、(H)、(I)、(J)、(N)の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編)」、§1. 共通注意事項」を参照のこと。

- (Q) 分割区分C

該当する橋梁の親表（「D010橋梁基本」）で記入した分割区分コードを記入する。

(Q-1) 分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

- ・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。
- ・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

(S) 径間又は躯体番号：◆

上部工の場合は、「D017橋梁径間」で作成されている橋梁分割毎の径間番号と径間分割番号までを記入する。伸縮装置等については、隣接する上部工の中で一番若い径間番号（起点側上部工）を記入する。落橋防止等については、上部工の径間番号を記入する。

下部工の場合は、「D016橋梁下部工」で作成されている躯体番号を記入する。

(記入例)

上部工の場合

下部工の場合

○径間分割がない場合

- | | | | |
|--------------------|---------------------------|---------------------|--------------------|
| ・「D017橋梁径間」
の記入 | 径間番号 一一> 1
径間分割番号 一> 0 | ・「D016橋梁下部工」
の記入 | 躯体番号 一> A 1 |
| ・本書式の記入 | 径間又は
躯体番号 一> 1 0 | ・本書式の記入 | 径間又は
躯体番号一> A 1 |

○径間分割がある場合

- | | |
|--------------------|----------------------------|
| ・「D017橋梁径間」
の記入 | 径間番号 一一> 2
径間分割番号 一一> 1 |
| ・本書式の記入 | 径間又は躯体番号 一> 2 1 |

(T) 上下部工区分C

上・下部工に関するデータの作成区分について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
上 部 工	1
下 部 工	2

(V) 補修改良年月日：◆

補修または改良を行った年月日を記入する。（年は西暦年で記入）

(記入例) 1988年 8月18日 一一一> 19880818

(W) 補修改良区分C：◆

補修または改良に関するデータの作成区分について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
補 修	1
改 良	2

(Y) 主な補修改良内容C : ◆

- 補修の場合は、表-A (1 / 2) に示す補修内容の区分より代表的な補修内容を選定し、該当するコードを記入する。
- 改良の場合は、表-A (2 / 2) に示す改良内容の区分より代表的な改良内容を選定し、該当するコードを記入する。

表-A 補修改良内容コード表 (1/2)

	区 分	コード	区 分	コード	
補 修 内 容	舗装 (その他)	1 1 0 0	支承 (その他)	1 6 0 0	
	全体打ち替え	1 1 0 1	支承本体の取替え	1 6 0 1	
	全体オーバーレイ	1 1 0 2	付属部材の取替え	1 6 0 2	
	部分打ち替え	1 1 1 1	支承座コンクリートの修復	1 6 1 1	
	部分オーバーレイ	1 1 1 2	〃 の打ち替え	1 6 1 2	
				支承座モルタルの修復	1 6 2 1
	床版 (その他)	1 2 0 0	〃 の打ち替え	1 6 2 2	
	全長打ち替え	1 2 0 1			
	全長取替え	1 2 0 2	落橋防止装置 (その他)	1 6 3 0	
	支間中間付近打ち替え	1 2 1 1	落橋防止装置の設置	1 6 3 1	
	〃 取替え	1 2 1 2	〃 の修復	1 6 3 2	
	支点付近打ち替え	1 2 2 1			
	〃 取替え	1 2 2 2	伸縮装置	1 7 0 0	
			伸縮装置本体の取替え	1 7 0 1	
	上部構造 (その他)	1 3 0 0	〃 の修復	1 7 0 2	
	主桁・主構局部的修復	1 3 0 1			
	〃 断面補強	1 3 0 2	排水施設 (その他)	1 8 0 0	
	〃 桁増設	1 3 0 3	蓋の取替え	1 8 0 1	
	〃 取替え	1 3 0 4	〃 の修復	1 8 0 2	
	横桁・横構・対傾構	1 3 1 0	柵の取替え	1 8 1 1	
	〃 局部的修復	1 3 1 1	〃 の修復	1 8 1 2	
	〃 断面補強	1 3 1 2	排水管の取替え	1 8 2 1	
	〃 桁増設	1 3 1 3	〃 の修復	1 8 2 2	
	〃 取替え	1 3 1 4			
	縦桁・床版	1 3 2 0	高欄 (その他)	1 9 0 0	
	〃 局部的修復	1 3 2 1	高欄全長の取替え	1 9 0 1	
	〃 断面補強	1 3 2 2	〃 全長の修復	1 9 0 2	
	〃 桁増設	1 3 2 3	〃 の部分取替え	1 9 1 1	
	〃 取替え	1 3 2 4	〃 の部分修復	1 9 1 2	
	下部工躯体 (その他)	1 4 0 0	防護柵 (その他)	1 9 2 0	
	橋台パラペット局部的修復	1 4 0 1	防護柵全長の取替え	1 9 2 1	
	〃 断面補強	1 4 0 2	〃 全長の修復	1 9 2 2	
	橋台前壁局部的修復	1 4 1 1	〃 の部分取替え	1 9 3 1	
	〃 断面補強	1 4 1 2	〃 の部分修復	1 9 3 2	
	橋台ウイング局部的修復	1 4 2 1			
	〃 断面補強	1 4 2 2	遮音壁 (その他)	1 9 4 0	
	橋脚 梁 局部的修復	1 4 3 1	遮音壁全長の取替え	1 9 4 1	
	〃 断面補強	1 4 3 2	〃 全長の修復	1 9 4 2	
	橋脚 柱 局部的修復	1 4 4 1	〃 の部分取替え	1 9 5 1	
	〃 断面補強	1 4 4 2	〃 の部分修復	1 9 5 2	
	下部工基礎 (その他)	1 5 0 0	遮光壁 (その他)	1 9 6 0	
	橋台フーチング拡大	1 5 0 1	遮光壁全長の取替え	1 9 6 1	
	〃 増杭	1 5 0 2	〃 全長の修復	1 9 6 2	
	〃 根固め工	1 5 0 3	〃 の部分取替え	1 9 7 1	
〃 周辺地盤の改良	1 5 0 4	〃 の部分修復	1 9 7 2		
橋脚フーチング拡大	1 5 1 1				
〃 増杭	1 5 1 2	補修その他	1 9 9 9		
〃 根固め工	1 5 1 3				
〃 周辺地盤の改良	1 5 1 4				

表-A 補修改良内容コード表 (2/2)

	区 分	コード
改 良 内 容	橋梁の拡張	
	・主桁増設による拡幅	2 1 0 1
	・ブラケット等による歩道部等の拡幅	2 1 0 2
	・隅きりの設置に伴う拡幅	2 1 0 3
	・その他	2 1 9 9
	橋梁の延伸	
	・橋梁の延伸による径間の増設	2 2 0 1
	・その他	2 2 9 9
	別橋梁の架設	
	・上下線分離等を目的とした車道用の別橋の架設 (当初計画有り)	2 3 0 1
	・上下線分離等を目的とした車道用の別橋の架設 (当初計画無し)	2 3 0 2
	・歩行者、自転車用の別橋の架設 (現況 (の下部工に添架されるものも含む))	2 3 0 3
	・その他	2 3 9 9
	橋梁の架替	
・全橋架替	2 4 0 1	
・一部架替	2 4 0 2	
その他		
・橋側歩道橋の取付部の改良 (スロープ等の付加)	2 9 0 1	
・化粧板設置や高欄取替えなどによる美観の向上	2 9 0 2	
・改良その他	2 9 9 9	

(AA) 床版補修補強面積(m²)

床版の補修・補強を行った場合について、該当する径間における床版補修・補強面積を小数点以下1位まで記入する。なお、改良の場合は、‘*’を記入する。

(記入例) 補強面積 A = 3 2 8 . 6 m² ——> 3 2 8 . 6

(AB) 前回補修年月日 : ◆

再補修の場合についてのみ前回の補修日を記入する。なお、改良の場合は、‘*’を記入する。

(年は西暦年で記入)

(記入例) 1 9 8 6 年 5 月 7 日 ——> 1 9 8 6 0 5 0 7

(AC) 工事費用（百万円）

該当する径間（上部工）または躯体（下部工）について、補修・補強、改良の工事費を記入する。

（記入例） 工事費用 15320万円 ——> 153

(AD) 施工会社

施工会社名を、10文字以内の日本語で入力する。

(AE) 備考

補修の要因やその他特記事項があれば日本語50文字以内で記入する。

[D01D] 橋梁点検補修

この調査表は、橋梁の補修・補強部材に関するデータを登録するためのものである。なお、この書式に関するデータは定期点検データの現存する橋梁の場合に作成するものとする。

1. 一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

- 「D010橋梁基本」の作成単位毎とする。
- 補修・補強を行った径間内における部材毎に作成する。

2. 記入事項

- (1) 工事番号
- (2) 工事区分C
- (3) 施設対応番号
- (C) 地整C
- (D) 事務所C
- (E) 出張所C
- (F) 路線
- (G) 現旧区分C
- (G-1) 現旧区分
- (H) 整理番号1
- (I) 整理番号2
- (J) 整理番号3
- (N) 補助番号

上記(1)、(2)、(3)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(G-1)、(H)、(I)、(J)、(N)の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編)」、§1. 共通注意事項」を参照のこと。

(P) 橋梁コード

橋梁コードについては以下の通り記入する。

- ・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。
- ・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

(Q) 分割区分C

該当する橋梁の親表（「D010橋梁基本」）で記入した分割区分コードを記入する。

(Q-1) 分割区分

分割区分については以下の通り記入する。

- ・既存データを貸与されている場合は、既存データに記載されている値を記入する。
- ・既存データを貸与されていない場合は、未記入とする。

(S) 径間番号

「D017橋梁径間」で作成されている橋梁分割毎の径間番号を記入する。

(T) 径間分割番号

「D017橋梁径間」で作成されている橋梁分割毎の径間分割番号を記入する。

(U) 補修年月日

補修・補強を行った年月日を記入する。（年は西暦年で記入）

（記入例） 1988年 8月18日 ——> 19880818

(V) 部材区分C

表-Aに示す部材区分表より該当する記号を記入する。

(X) 部材番号

部材番号は、橋梁点検要領（案）に基づく部材番号を記入する。

(Y) 補修補強内容C

各部材の補修内容については、表-Bに示す補修工法コード表より、該当するコードを記入する。

表-A 部材区分表

区 分	コード
鋼主桁	MS
コンクリート主桁	MC
鋼横桁	CS
コンクリート横桁	CC
鋼縦桁	SS
コンクリート縦桁	SC
対傾構	SW
横構	LB
鋼床版	DS
コンクリート床版	DC
鋼橋脚	PS
コンクリート橋脚	PC
橋台	AC
基礎	FO
鋼支承	BS
ゴム支承	BR
モルタル	BM
アンカーボルト	BA
鋼製高欄	ES
コンクリート高欄	EC
鋼製防護柵	RS
コンクリート製防護柵	RC
鋼地覆	FS
コンクリート地覆	FC
鋼製中央分離帯	NS
コンクリート中央分離帯	NC
縁石	CU
舗装	PM
鋼製伸縮装置	JS
ゴム製伸縮装置	JR
排水施設	DR
鋼製落橋防止装置	TS
コンクリート製落橋防止装置	TC
点検施設	AL
遮音施設	SO
照明施設	IL
標識	IN
袖擁壁	WW
添架物	UT
	XX
	XY
トラス橋の弦材	YY
アーチ橋のアーチ部材	ZZ
	XZ
	YZ

表-B 補修工法コード表

区 分	コード	区 分	コード
新規設置(橋梁付属物・支承含)	001	打換え工法(構造部材)	031
修復工法(橋梁付属物・支承含)	002	打換え工法(プレキャスト床版へ)	032
取替工法(橋梁付属物・支承含)	003	取替工法(構造部材)	033
打換え工法(舗装)	004	上面コンクリート増厚工法	034
矯正工法	005	下面コンクリート増厚工法	035
ストップホール工法	006	RC巻立法	036
添設補強工法	007	壁増設	037
溶接補修工法	008	支持点増設工法	038
再塗装	009	鋼板巻立法	039
補強材工法	010	鋼板接着工法	040
桁増設工法	011	炭素繊維シート巻立法	041
縦桁増設工法	012	炭素繊維シート接着工法	042
添接板高力ボルト締付工法	013	アラミド繊維シート巻立法	043
支持工法	014	アラミド繊維シート接着工法	044
ひびわれ注入工法	015	外ケーブル工法	045
U(V)カット(充填)工法	016	内ケーブル工法	046
アンカー工法(ひび割れ縫い合わせ)	017	地中壁・梁増設工法	047
断面修復工法(打換え工法)	018	杭・フーチング増設工法	048
断面修復工法(吹付工法)	019	地盤改良工法	049
断面修復工法(パッチング工法)	020	鋼矢板締切工法	050
断面修復工法(プレパックス工法)	021	根固め工法	051
表面保護工法(表面被覆工法)	022	グラウンドアンカー工法	052
表面保護工法(表面処理工法)	023	拡幅	053
表面保護工法(埋設型砕工法)	024	架替え	054
床版防水の設置工	025	その他の工法	999
防錆工法	026		
電気化学的補修(脱塩工法)	027		
電気化学的補修(再アルカリ化工法)	028		
電気防食工法	029		
打継ぎ工法(構造部材)	030		

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

1/2

D010：橋梁（基本諸元）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999		○	○
現旧区分C	半角1文字		○	○
整理番号1	半角8文字		○	○
整理番号2	半角4文字		○	○
整理番号3	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
橋梁コード	半角4文字		○	○
分割区分C	半角1文字		○	○
施設完成年度	999	和暦		○
施設改修年度	999	和暦	○	○
名称	全角20文字		○	○
橋梁種別C	半角1文字		○	○
橋梁区分C	半角1文字		○	○
架設竣工年	1999	西暦	○	○
等級C	半角1文字		○	○
適用示方書C	半角3文字		○	○
総径間数	999		○	○
歩道添架C	半角1文字			○
事業区分C	半角1文字		○	○
百米標自	999.9	k m	○	○
距離自	9999	m	○	○
百米標至	999.9	k m	○	○
距離至	9999	m	○	○
橋長	9999.99	m	○	○
橋面積	99999.9	m ²	○	○
平面形状C	半角1文字		○	○
落下物防止柵高さ	9.99	m	○	○
落下物防止柵延長	999.99	m	○	○
遮音壁有無C	半角1文字		○	○
遮光壁有無C	半角1文字		○	○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

2/2

D010：橋梁（基本諸元）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
踏掛版有無C	半角1文字		○	○
点検施設C	半角1文字		○	○
排水施設C	半角1文字		○	○
床版防水範囲C	半角1文字			○
設計活荷重C	半角2文字		○	○
通行制限C	半角1文字		○	○
荷重制限	99.9	t f		○
制限高さ	99.9	m		○
制限幅	99.9	m		○
上部工分離橋脚一体別C	半角1文字		○	○
起点側市区町村C	半角5文字		○	○
起点側検査数字	半角1文字		○	○
起点側所在地	全角30文字		○	○
終点側市区町村C	半角5文字		○	○
終点側検査数字	半角1文字		○	○
終点側所在地	全角30文字		○	○
他域橋長	9999.99	m	○	○
起終点区分C	半角1文字		○	○
橋梁接続起点側市区町村C	半角5文字		○	○
橋梁接続起点側検査数字	半角1文字		○	○
橋梁接続起点側橋梁種別C	半角1文字		○	○
橋梁接続起点側橋梁コード	半角4文字		○	○
橋梁接続起点側分割番号	半角1文字		○	○
橋梁接続終点側市区町村C	半角5文字		○	○
橋梁接続終点側検査数字	半角1文字		○	○
橋梁接続終点側橋梁種別C	半角1文字		○	○
橋梁接続終点側橋梁コード	半角4文字		○	○
橋梁接続終点側分割番号	半角1文字		○	○
塩害地域区分C	半角2文字			○
塩害地域距離	99.9	k m		○
照明有無C	半角1文字			○
消雪パイプ有無C	半角1文字			○
ロードヒート有無C	半角1文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

1/1

D011：橋梁（幅員構成）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分C	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号1	半角8文字		○	○
整理番号2	半角4文字		○	○
整理番号3	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
橋梁コード	半角4文字			○
分割区分C	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
全幅員	99.99	m	○	○
有効幅員	99.99	m	○	○
左側車線地覆幅	9.99	m	○	○
左側車線地覆高	9.99	m		○
左側車線歩道幅	99.99	m	○	○
左側車線路肩幅	99.99	m	○	○
左側車線車道幅	999.99	m	○	○
左側車線車線数	9			○
中央帯	99.99	m	○	○
中央分離帯	99.99	m	○	○
右側車線車線数	9			○
右側車線車道幅	999.99	m	○	○
右側車線路肩幅	99.99	m	○	○
右側車線歩道幅	99.99	m	○	○
右側車線地覆幅	9.99	m	○	○
右側車線地覆高	9.99	m		○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

1/1

D012：橋梁（高欄・防護柵）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版	中国版
			SYOGEN	SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分C	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号1	半角8文字		○	○
整理番号2	半角4文字		○	○
整理番号3	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
分割区分C	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
高欄防護柵設置場所C	半角1文字		○	○
高欄防護柵別C	半角1文字			○
高欄防護柵材質材料C	半角1文字		○	○
防護柵設計種別C	半角2文字		○	○
高欄防護柵高さ	9.99	m		○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

1/1

D013：橋梁（交差状況）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分C	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号1	半角8文字		○	○
整理番号2	半角4文字		○	○
整理番号3	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
分割区分C	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
架橋状況C	半角1文字		○	○
協議有無C	半角1文字			○
交差物名称	全角10文字		○	○
協議機関	全角10文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

1/1

D014：橋梁（添架物）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分C	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号1	半角8文字		○	○
整理番号2	半角4文字		○	○
整理番号3	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
分割区分C	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
添架物区分C	半角1文字		○	○
添架物種別C	半角2文字		○	○
添架物寸法	9999		○	○
添架物重量	999	Kgf/m	○	○
添架物管理者名	全角10文字		○	○
占用物件本数	999		○	○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D015：橋梁（上部工）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
			全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
	データ表現	単位		
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分C	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号1	半角8文字		○	○
整理番号2	半角4文字		○	○
整理番号3	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
分割区分C	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
構造体番号	半角3文字		○	○
平面形状C	半角1文字			○
起点側伸縮装置形式C	半角2文字		○	○
終点側伸縮装置形式C	半角2文字		○	○
材料区分C	半角1文字		○	○
桁形式区分C	半角1文字		○	○
構造形式C	半角3文字		○	○
路面位置C	半角1文字		○	○
主桁主構本数	999		○	○
主桁主構高さ	99.99	m	○	○
主桁主構間隔	99.99	m	○	○
横桁間隔	99.99	m		○
床版材料C	半角1文字		○	○
床版種類使用形式C	半角2文字			○
床版橋軸直角方向支間	9.99	m		○
床版橋軸方向支間	9.99	m		○
床版厚さ	99.9	c m	○	○
架設年月日	19990101	西暦	○	○
鋼上部工材質C	半角2文字			○
鋼上部工表面処理C	半角1文字		○	○
塗装年月日	19990101	西暦	○	○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D015：橋梁（上部工）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
プライマー下塗塗料C	半角2文字		○	○
中塗塗料C	半角2文字		○	○
上塗塗料C	半角2文字		○	○
塗装方法C	半角1文字		○	○
工場塗装面積	99999.9	m ²	○	○
本体塗装面積	99999.9	m ²	○	○
高欄塗装面積	99999.9	m ²	○	○
塗装色	半角9文字		○	○
塗装会社	全角10文字		○	○
P C 鋼材材質C	半角2文字			○
P C 鋼材緊張工法C	半角2文字			○
主桁コンクリート強度	999	kg/cm ²	○	○
主桁打設方法C	半角1文字			○
主桁セメント種類C	半角1文字			○
主桁細骨材種類C	半角1文字			○
主桁粗骨材種類C	半角1文字			○
主桁粗骨材寸法	999	mm		○
主桁指定スランプ	99.9	cm		○
主桁混和剤 1 C	半角2文字			○
主桁混和剤 2 C	半角2文字			○
主桁混和剤 3 C	半角2文字			○
主桁混和剤 4 C	半角2文字			○
主桁混和剤 5 C	半角2文字			○
主桁アルカリ骨材対策 1 C	半角1文字			○
主桁アルカリ骨材対策 2 C	半角1文字			○
主桁アルカリ骨材対策 3 C	半角1文字			○
主桁アルカリ骨材対策 4 C	半角1文字			○
床版コンクリート強度	999	kg/cm ²	○	○
床版打設方法C	半角1文字			○
床版セメント種類C	半角1文字			○
床版細骨材種類C	半角1文字			○
床版粗骨材種類C	半角1文字			○
床版粗骨材寸法	999	mm		○
床版指定スランプ	99.9	cm		○
床版混和剤 1 C	半角2文字			○
床版混和剤 2 C	半角2文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D015：橋梁（上部工）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版	中国版
			SYOGEN	SYOGEN_0
床版混和剤 3 C	半角2文字			○
床版混和剤 4 C	半角2文字			○
床版混和剤 5 C	半角2文字			○
床版アルカリ骨材対策 1 C	半角1文字			○
床版アルカリ骨材対策 2 C	半角1文字			○
床版アルカリ骨材対策 3 C	半角1文字			○
床版アルカリ骨材対策 4 C	半角1文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

1/2

D016：橋梁（下部工）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分C	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号1	半角8文字		○	○
整理番号2	半角4文字		○	○
整理番号3	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
分割区分C	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
躯体番号	半角3文字		○	○
完成年月日	19990101	西暦		○
橋台橋脚構造形式C	半角2文字		○	○
橋台橋脚高さ	999.99	m	○	○
基礎形式C	半角1文字		○	○
塗装年月日	19990101	西暦	○	○
プライマー下塗塗料C	半角2文字		○	○
中塗塗料C	半角2文字		○	○
上塗塗料C	半角2文字		○	○
塗装方法C	半角1文字		○	○
工場塗装面積	99999.9	m ²	○	○
本体塗装面積	99999.9	m ²	○	○
塗装色	半角9文字		○	○
塗装会社	全角10文字		○	○
P C鋼材材質C	半角2文字			○
P C鋼材緊張工法C	半角2文字			○
躯体コンクリート強度	999	kg/cm ²	○	○
躯体打設方法C	半角1文字			○
躯体セメント種類C	半角1文字			○
躯体細骨材種類C	半角1文字			○
躯体粗骨材種類C	半角1文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D016：橋梁（下部工）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
躯体粗骨材寸法	999	m m		○
躯体指定スランプ	99.9	c m		○
躯体混和剤 1 C	半角2文字			○
躯体混和剤 2 C	半角2文字			○
躯体混和剤 3 C	半角2文字			○
躯体混和剤 4 C	半角2文字			○
躯体混和剤 5 C	半角2文字			○
躯体アルカリ骨材対策 1 C	半角1文字			○
躯体アルカリ骨材対策 2 C	半角1文字			○
躯体アルカリ骨材対策 3 C	半角1文字			○
躯体アルカリ骨材対策 4 C	半角1文字			○
基礎コンクリート強度	999	kg/cm ²		○
基礎打設方法 C	半角1文字			○
基礎セメント種類 C	半角1文字			○
基礎細骨材種類 C	半角1文字			○
基礎粗骨材種類 C	半角1文字			○
基礎粗骨材寸法	999	m m		○
基礎指定スランプ	99.9	c m		○
基礎混和剤 1 C	半角2文字			○
基礎混和剤 2 C	半角2文字			○
基礎混和剤 3 C	半角2文字			○
基礎混和剤 4 C	半角2文字			○
基礎混和剤 5 C	半角2文字			○
基礎アルカリ骨材対策 1 C	半角1文字			○
基礎アルカリ骨材対策 2 C	半角1文字			○
基礎アルカリ骨材対策 3 C	半角1文字			○
基礎アルカリ骨材対策 4 C	半角1文字			○
適用示方書 1 C	半角3文字			○
適用示方書 2 C	半角3文字			○
適用示方書 3 C	半角3文字			○
躯体鋼材質 C	半角2文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

1/1

D017：橋梁（径間）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分C	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号1	半角8文字		○	○
整理番号2	半角4文字		○	○
整理番号3	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
分割区分C	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
構造体番号	半角3文字		○	○
径間番号	半角2文字		○	○
径間分割番号	半角1文字		○	○
支間番号	半角1文字		○	○
支間長	999.999	m	○	○
起点側支承種類C	半角2文字		○	○
起点側落橋防止1C	半角1文字		○	○
起点側落橋防止2C	半角1文字		○	○
起点側落橋防止3C	半角1文字		○	○
終点側支承種類C	半角2文字		○	○
終点側落橋防止1C	半角1文字		○	○
終点側落橋防止2C	半角1文字		○	○
終点側落橋防止3C	半角1文字		○	○
起点側躯体番号1	半角3文字		○	○
起点側躯体番号2	半角3文字		○	○
終点側躯体番号1	半角3文字		○	○
終点側躯体番号2	半角3文字		○	○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

1/1

D019：橋梁（塗装歴）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分C	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号1	半角8文字		○	○
整理番号2	半角4文字		○	○
整理番号3	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
分割区分C	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
径間又は躯体番号	半角3文字		○	○
上下部工区分C	半角1文字		○	○
塗装年月日	19990101	西暦	○	○
プライマー下塗塗料C	半角2文字		○	○
中塗塗料C	半角2文字		○	○
上塗塗料C	半角2文字		○	○
塗装方法C	半角1文字			○
清浄度C	半角1文字			○
本体塗装面積	99999.9	m ²	○	○
高欄塗装面積	99999.9	m ²	○	○
塗装色	半角9文字		○	○
塗替え程度C	半角1文字			○
塗装費用	999999	百万円		○
備考	全角50文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

1/1

D01A：橋梁（補修歴）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999			○
現旧区分C	半角1文字			○
現旧区分	全角2文字			○
整理番号1	半角8文字		○	○
整理番号2	半角4文字		○	○
整理番号3	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
分割区分C	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
径間又は躯体番号	半角4文字		○	○
上下部工区分C	半角1文字			○
補修改良年月日	19990101	西暦	○	○
補修改良区分C	半角1文字		○	○
主な補修改良内容C	半角4文字		○	○
床版補修補強面積	99999.9	m ²		○
前回補修年月日	19990101	西暦	○	○
工事費用	999999	百万円		○
施工会社	全角10文字			○
備考	全角50文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

1/1

D01D：橋梁（点検補修）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999		○	○
現旧区分C	半角1文字		○	○
現況区分	全角2文字			○
整理番号1	半角8文字		○	○
整理番号2	半角4文字		○	○
整理番号3	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
橋梁コード	半角4文字		○	○
分割区分C	半角1文字			○
分割区分	全角5文字迄			○
径間番号	半角2文字		○	○
径間分割番号	半角1文字		○	○
補修年月日	99999999	西暦	○	○
部材区分C	半角2文字		○	○
部材番号	半角2文字		○	○
補修補強内容C	半角3文字		○	○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照